



# The Creed of Junior Chamber International

# JCI 綱領

We Believe :  
That faith in God gives meaning  
and purpose to human life;  
That the brotherhood of man  
transcends the sovereignty of nations;  
That economic justice can best be won  
by free men through free enterprise;  
That government should be of laws  
rather than of men;  
That earth's great treasure lies in  
human personality; and  
That service to humanity is the best  
work of life.

我々はかく信じる：  
「信仰は人生に意義と目的を与え  
人類の同胞愛は国家の主権を超越し  
正しい経済の発展は  
自由経済社会を通じて最もよく達成され  
政治は人によって左右されず法によって  
運営されるべきものであり  
人間の個性はこの世の至宝であり  
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

<1947 年世界会議総会採択>

<1951 年一部追加>

---

## JCI Mission

To provide development opportunities  
that empower young people  
to create positive change.

## JCI ミッション

より良い変化をもたらす力を青年に与えるために  
発展・成長の機会を提供すること

<2008 年世界会議総会採択>

---

## JCI Vision

To be the leading global network of  
young active citizens.

## JCI ビジョン

若き能動的市民の主導的な  
グローバル・ネットワークになること

<2008 年世界会議総会採択>

---

## JC 宣言

日本の青年会議所は  
希望をもたらす変革の起点として  
輝く個性が調和する未来を描き  
社会の課題を解決することで  
持続可能な地域を創ることを誓う

---

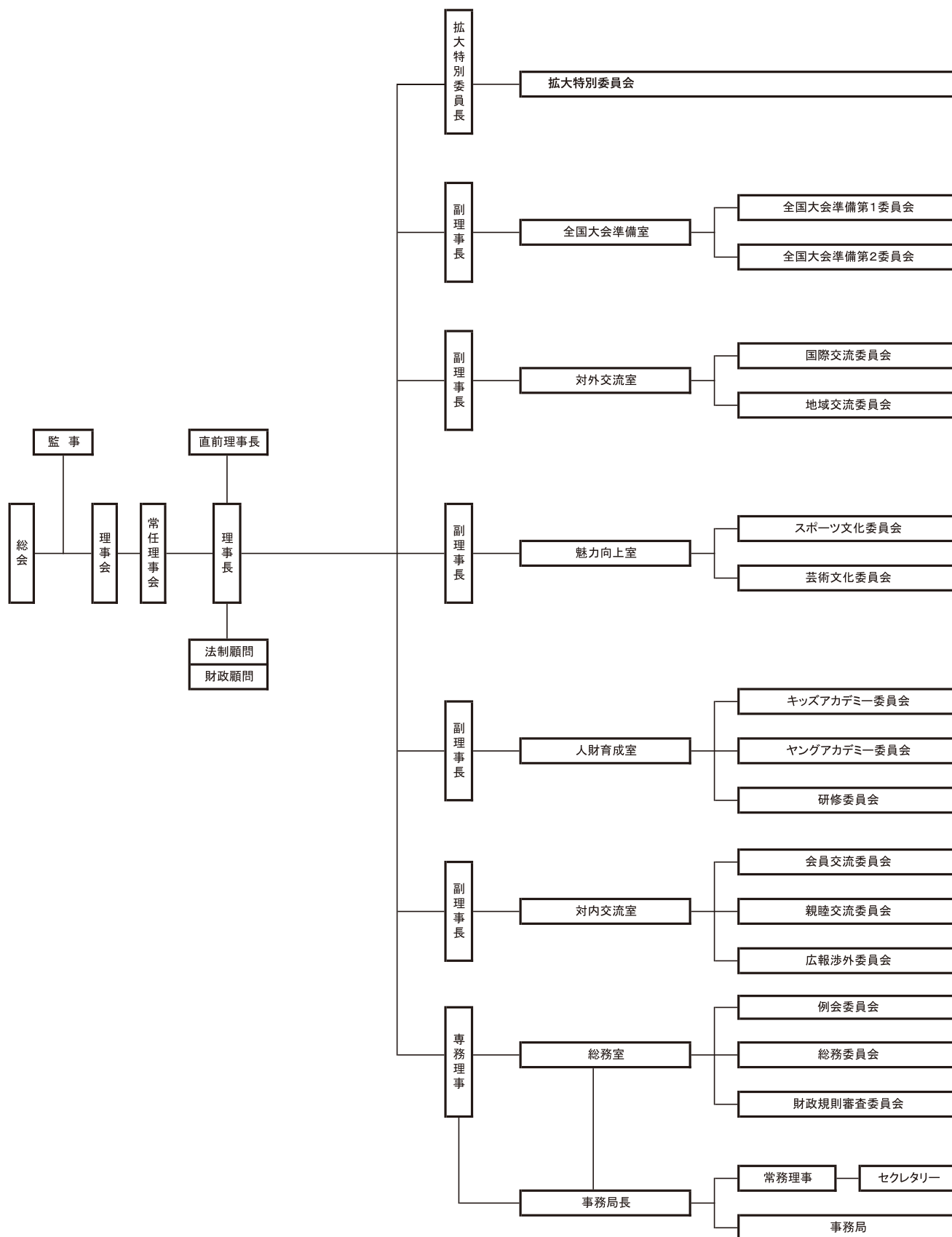
## 綱領

われわれ JAYCEE は  
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し  
志を同じうする者 相集い 力を合わせ  
青年としての  
英知と勇気と情熱をもって  
明るい豊かな社会を築き上げよう

# 目次

2023年度	組織図	2
2023年度	役員	3
2023年度	理事長所信	4
2023年度	理事長、直前理事長、副理事長、専務理事、 監事、法制顧問、財政顧問、事務局長、 常務理事、セクレタリー	9
2023年度	室・委員会 基本方針・事業計画	11
2023年度	室・委員会 所務分掌規程	35
2023年度	委員会編成表	37
	青年会議所の概況	38
2023年度	日本JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会 組織図	39
	福岡青年会議所 歴代理事長	42
	出向外部団体一覧	43

一般社団法人 福岡青年会議所  
2023年度 組織図







理事長 前川 裕貴

## 立ち止まらず、進み続ける

1953年2月4日、全国で35番目のLOMとしてJCI福岡が設立し本年度で70周年を迎えます。戦後間もない日本で「未来のために」を考え復興に取り組み、その時代時代でのまちの弱みや強みを見つけ、解決や発展に取り組んできたからこそ、今のJCI福岡があります。

現在、私たちが生きているこの時代では「ニューノーマル」や「新しい生活様式」などの様々な言葉で変化を告げています。この変化を「一時的な変化」と考えている人もいるかもしれません。しかし、私は「危機を乗り越えたから元のやり方に戻して通じる。」とは思いません。確定的な変化だということに気付かずに未来を描こうとしても、それは効果も共感も生まれない自己満足なものとなってしまいます。

私たちJCは、ひとつくりを通して未来のまちを創っていく団体です。その未来をつくるために何をすべきでしょうか。私は過去を知り、今を理解し、今しかできないことを考え、行動に移す者にしか未来をつくることはできないと考えます。今の時代、立ち止まることがリスクとなるでしょう。だからこそ、どんな時も立ち止まらず、進み続けてきたJCが次代のために何をすべきか。過去に囚われ過ぎず未来に夢と想いをのせ、立ち止まらず、行動し続けていきましょう。

## 成功するための基盤を構築

1958年、1977年、1989年に福岡の地で開催した、JCI日本主催の全国大会を2024年10月に、JCI福岡が4度目の主管LOMとして「公益社団法人日本青年会議所 第73回全国大会 福岡大会」を開催します。

全国大会が有する5益というものが存在します。①地域益②主管益③参加者益④主催者益⑤社会益の5つです。その中でも、私たちLOMが重視すべきものは「地域益」ではないでしょうか。2021年度12月に開催の決定へと導き、2022年度はどのような大会にすべきかと夢を語り合ってきました。本年度は、今まで語り合ってきた夢であるFUKUOKAの発展を現実のものにするための準備の1年となります。

私がJCに入会した当初、よく「準備が9割」という言葉を耳にしてきました。

2022年度の全国大会準備会議で語り合ってきた夢は小さな目標ではなく、私たちが住み暮すFUKUOKAをより良い都市にしていくという壮大なものです。FUKUOKAをひと回りもふた回りも成長するためLOM全体で準備に取り組み、どんな問題が起ころうとも2024年度の第73回全国大会を大成功に終えることができるようにLOMの基盤をより強固なものとしましょう。

## FUKUOKA をバックアップする

今、私たちが住み暮す福岡はどんな都市でしょうか。日本国内の政令指定都市の中でも人口増加数、増加率 1 位、住環境の満足度も 96% 以上を誇り、企業進出も 8 年連続 50 社超えと、多くの雇用を創出しています。そんな中、福岡市では 2012 年よりアジアの交流拠点としての基本構想を立て、2016 年には「FUKUOKA NEXT」と題し、福岡を次なるステージへと飛躍させるチャレンジを進め、アジアのリーダー都市を目指し、取り組んできました。近年では、国際金融機能の誘致に向けた環境整備をすべく TEAM FUKUOKA を 2020 年 9 月に設立するなど、未来のために進み続けています。

こんなに活気溢れる福岡で私たちができることがあるのか。成長し続ける都市で私たちが描く未来はこの波に乗れているのか不安になることがあります。しかし、この考えは過去の JC の在り方に縛られているからではないでしょうか。官民連携や官民共創がささやかれる今だからこそ、行政が見えない部分や動けないことこそが、私たち JC がすべきことだと考えます。足を使い課題解決に向けた働きこそが未来を発展させることにつながるでしょう。

そしてそれは、JC だけですべきことではないと考えます。他団体、行政、民間企業と一緒にやり、JC として新たな関わりを増やしていくことでより良い波及効果につながります。共に活動するための連携、関係構築こそが、FUKUOKA にとって最大のバックアップとなるでしょう。

## 文化活用した福岡ファンづくりを

心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものは何でしょうか。それは、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びを与え、豊かな人間性の育成と創造性を育む「文化」です。文化の活用は FUKUOKA の存在感と住環境をより高めることができるのではないのでしょうか。

福岡には、食文化や伝統文化が根付いています。これらは現在もまちの特色として県内外の方にも知られています。しかし、2019 年まで増加傾向にあった観光客数も 2020 年以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響とはいえ激減してしまいました。行動を規制されていた状況を考えれば仕方がないことですが、私は観光客が来ていなかったことで違うチャンスが巡ってきていると考えます。福岡に他県や国外の方が来ていない今、地域に根付いた文化をより高める熟成期間と捉えることで、それが新たな観光資源を生み出し、多くの FUKUOKA ファンを獲得できるきっかけとなるでしょう。

特に本年は、新たな文化形成を実施していくチャンス的年だと感じています。2022 年より Fukuoka Art Next の始動や、7 月には 2021 年から延期になっていた世界水泳が 2 年越しに FUKUOKA の地で開催されます。国内外の観光客が福岡の地に来る絶好の機会です。この機に伝統的な文化や文化を活用した新たな FUKUOKA を知ってもらうことで、経済効果を生み出してくれると確信しています。だからこそ本年度は、文化に再注目し、文化を活用したまちづくりを実施し、新たな FUKUOKA ファンを増やしましょう。

## 人財育成が未来を創る基盤となる

JC には今も昔も変わらない、「すべきこと」があります。それはこの先も、明るい豊かな社会を創造し続けることです。現在進行形で明るい豊かな社会にするために活動、運動しているのが現メンバーだと私は考えています。しかし、私たちメンバーがすべきことを新しいメンバーに伝えていけない限り、永続して同じ方向に向かうのは難しくなるでしょう。だからこそ新入会の方々には初期段階で、団体としての存在意義や目的や理念の理解を深める研修を通じて、期待感を向



上させ JAYCEE としての活動、運動をしたいと想ってもらえる育成が必要です。

そして、未来の FUKUOKA で先陣をきって、より良い社会に導くのは誰でしょうか。それは、今の子供たちです。子供たちが本気でまちのことを考えてくれるためには、何よりもこの福岡を好きになってもらうことが必要と考えます。

2019 年より開始された Kids JAYCEE や Young JAYCEE の育成事業では能動的市民になるための経験や育成に力を入れてきました。次の段階として、キッズ世代においては、子供たち自身が住み暮らす福岡に「郷土愛」が生まれる活動が必要です。また、ヤング世代はある程度の地域性を理解している年代だと捉えるべきだと考えます。彼らには郷土愛をもったうえでの運動を実践することこそがより必要となります。この活動、運動を経て高まる郷土愛こそ、このまちの原動力となり、FUKUOKA の基盤となっていくでしょう。

## 対内交流は未来創造の近道に

JC の良さは「行動力」。

JCI 福岡には 70 年間歩んできた歴史があり、先人たちが活動、運動してきた足跡を知ることが行動力を発揮するための大きなヒントになります。その先人たちの言葉には、多くの知識と経験があり、学びを感じることができるでしょう。その学び場をつくるには私たち自身で足を使い交流の場を設けることが必要となります。

また、LOM としては対外と認識していますが、同じ志をもつ仲間が存在があります。それは各地 LOM の存在です。これまで我々は、福岡県各地にある 21LOM との関係性に少し遠慮しすぎてきていたのではないのでしょうか。本来であれば私たちの住み暮らすまちのことを考えれば、さらにその連携を強化する必要があると感じています。今すぐに共同事業を実施することは難しいとしても、関係の構築を推進していく動きをとっていくべきです。県下 21LOM のことを対内と同じように思える関係性を構築し、連携することでより良い FUKUOKA を形成していくことができるでしょう。

そして、交流には「経験と知識」を「情報」として伝える機能があります。情報の共有を行うことで、それは LOM の財産へと昇華していきます。また、行動力には JCI 福岡に引き継がれてきた「仲間のためを思い動く行動力」というものもあり、メンバーの状況を理解するために近くで活動内容を確認することや、膝と膝を付き合わせて想いを語り合うことを行ってきています。行動力を活かして LOM 内で情報を共有していくこと、そしてそこから生まれる夢や想いの共有こそ LOM が一体となる手段であり、未来を創造するための芯となるでしょう。

## 意思統一とシステムの熟知が行動力のカギに

JC としての活動、運動を行っていくには、必ず検討し、徹底していくべきことがあります。LOM の指針との整合性、多角的な議論、コンプライアンスの徹底の 3 点です。

私たちは単年度制の団体であるからこそ、この点を基軸に定期的に意思統一を図る機会を作り、その時々にあった情報共有と意思の再確認を行うことが重要です。そしてその最たるものは議案を通して行われます。LOM の指針に沿った議案が作成され、それを基に議論が行われ、コンプライアンスの徹底により事業に信頼が寄せられる。しかし、近年は議案に対する苦手意識が強くなっているように感じています。その原因はシステムに対する理解不足と経験不足によるものです。これらを解決できれば、より良い議論が交わされる会議となり、より意思統一がされ、事



業への展開が可能となるでしょう。

そして、そのシステム理解によって、効率的な活、運動も可能となるのではないのでしょうか。時間は限られたものです。理解不足によって立ち止まってしまうためにも今一度、JC、LOMとしてのシステムの熟知というものが必要になってきます。

## FUKUOKA の発展を同志と共に続けよう

この JCI 福岡が 70 年間存続してきた理由は何でしょうか。私は「同じ志をもつメンバー」が常にいたからだと考えます。私たちが未来に向けた様々な計画を実施しても、メンバーがいなければ何も実施できず、なんの効果も生み出すことはできなくなるでしょう。未来のまちを創っていくためには、これからを担うメンバーを拡大し続けることは最重要事項です。

近年、在籍年数の短期化が LOM 内の問題を引き起こしている可能性はないでしょうか。在籍年数が短いことは、経験不足によって組織としての役割不足に陥ってしまうなど団体の弱体化を引き起こす可能性があります。これまで LOM 内に拡大委員会を設置し担当委員会として拡大を第一に活動をしていましたが、他委員会との連携でスピード感が落ち、拡大対象者を逃すことにつながっていました。そもそも、拡大はメンバー一人ひとりに課せられた所務だと考えるべきことを、委員会所務や担当委員会所務として他人事の考えになっているのが現状です。

そういったことから今までの拡大手法に加え、新たな手法も考えていくべきだと感じています。また、時代が変化し続けているのにも関わらず入会条件は大きな変更がありません。変更することが前提ではありませんが、現状の条件が適したものか、また時代に沿ったものになっているかも検討する必要があります。

新たなメンバーが増え、毎年のように様々な在籍年数の入会希望者を受け入れることで JCI 福岡が今までと変わらず、住み暮す福岡で活動、運動を展開し、発展し続けることができるでしょう。

## 今ではない。未来のためにできること

JC には、LOM 以外にも JCI 日本や九州地区協議会、福岡ブロック協議会など LOM では経験できないことを経験できる機会があります。「個の成長」「LOM の成長」「まちへの貢献」など一見 LOM でもできることだと感じる部分ですが、LOM と出向の両方を同時に経験することは 2 倍以上の効果があると確信しています。外から見ないと気がつかない気づき、例えば、他の LOM と比較したときの JCI 福岡の優れている部分と改善点や、福岡のまちの特徴など、そして出向組織特有の多様な発想や活動など、広く行動すればするほどその機会はあなたの視野を広げ柔軟な発想を生み出してくれます。

2024 年度に控える全国大会を成功するために基盤構築は必要な準備だと記載しましたが、出向し見聞を広めることもまた個々でできる準備の一つです。LOM の意識を統一し、一体感を持ち出向先でも行動することで全国大会への期待を内外へ与えることができるのではないのでしょうか。メンバー各々の各地での経験、各地での気づきが未来につながり、次代のためとなる活動、運動になるでしょう。

いつの時代であっても私たちは「時代にあったこと」をするのではなく「次代のためにできること」をするべきであると考えます。70 周年を迎え、次代を考え行動していくことは脈々と受け継がれてきた JCI 福岡としての伝統そのものです。そこで、2024 年度に全国大会の主管を迎え

るこのタイミングの中、私たちは LOM だけではなく少し視野を広げた考え方も必要となってくるでしょう。

## KEEP GOING

メンバー同士の交流、対外の方との交流、事業の準備、事業の計画など、様々なことに想いを乗せて本気でやってみませんか。「仕事を控えめにしてほしい。家族との時間を割いてほしい。」ということではありません。ただ、JC に関わる時間に本気で取り組んでほしいのです。

私自身、本気で JC してきました。煙たがられることや仲間との衝突もあり、辛いことや苦しいことを感じることもありました。しかし、同時に喜びや楽しみを感じることも、JC メンバーが好きだと感じることも多くありました。本気で向き合うことで、そこで感じた「喜怒哀楽」が私自身を成長させてくれました。個の成長に必要なことは、近くにいる仲間のことを考え、自分をさげ出すことだと確信しています。

「自分だけ、自分たちだけ」では JC としての存在意義はありません。私たち JC は「ひとつづくりを通して未来のまちを創っていく」団体です。今の時代、未来を感じ、どんな FUKUOKA にしたいか。壮大なストーリーを描き続けるしかありません。

無謀と思える未来でも、実現困難な夢でも。この 1 年何をすべきか、どう動くべきか。壮大なストーリーに追いつくためには進み続けるしかありません。

バカげた夢でも、ぶっ飛んだことでも、ひとりではなく、同じ志を持つ仲間と共に

「家族のため」「社員のため」「仲間のため」「FUKUOKA のため」

感謝の気持ちを忘れず、明るい豊かな社会の実現を目指し、挑戦しよう！

**立ち止まらず、進み続けよう！！**



理事長  
前川 裕 貴  
President  
Hiroki Maekawa



直前理事長  
西 嶋 聖  
Immediate Past President  
Akira Nishijima



副理事長  
尾 本 勝 征  
Executive Vice President  
Katsumasa Omoto



副理事長  
水 崎 浩 二  
Executive Vice President  
Koji Mizusaki



副理事長  
中 原 壯 一 朗  
Executive Vice President  
Soichiro Nakahara



副理事長  
石 坂 泰 三  
Executive Vice President  
Taizo Ishizaka



副理事長  
古 田 真 幸  
Executive Vice President  
Mayuki Furuta



拡大特別委員長  
(副理事長待遇常任理事)  
原 翼  
Executive  
Vice President status  
Tsubasa Hara



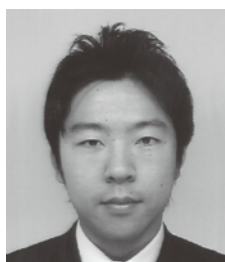
専務理事  
堤 祐 一 郎  
Senior Executive Director  
Yuichiro Tsutsumi



監 事  
松 岡 将 史  
Auditor  
Shoji Matsuoka



法制顧問  
奥 膳 和 時  
General Legal Counsel  
Kazutoki Okuzen



法制顧問  
年 岡 裕 也  
General Legal Counsel  
Yuya Toshioka



財政顧問  
古市 剛  
Treasurer  
Tsuyoshi Furuichi



事務局長  
板谷 和樹  
Secretary-General  
Kazuki Itadani



常務理事  
小柳 佑貴  
Managing Director  
Yuki Koyanagi



常務理事  
鶴 和晃  
Managing Director  
Kazuaki Tsuru



セクレタリー  
浦田 慎也  
Secretary  
Shinya Urata



セクレタリー  
近藤 圭  
Secretary  
Kei Kondo



セクレタリー  
中井 新一  
Secretary  
Shinichi Nakai

# 拡大特別委員会

## 委員会スローガン【その出会いが人生を、より良くする】



委員長 原 翼  
副委員長 本間 晃平  
運営幹事 羽川 礼華  
会計幹事 新納 尚祐

### ●基本方針

2024年10月あなたは現役メンバーだろうか？それとも卒業しているだろうか？  
現役と答えたあなたに聞きたい。  
あなたは2024年10月の全国大会を終えた瞬間、喜びの歓喜と言葉に表すことのできない達成感、まちの方々から届く心からの感謝の言葉に包まれながらJCI福岡の仲間たちと感動の涙を流し、抱き合っているだろうか。  
それとも心身ともに疲弊し「こんなのやらなきゃよかった」と下を向き、愚痴をこぼしながら一人寂しく家路につくのだろうか。  
卒業していると答えたあなたに聞きたい。  
JCI福岡の仲間たちと感動の涙を流しながら抱き合っている後輩たちを見ながら、OBとして「全国大会を支えてきて本当によかった。JCI福岡のOBとして誇りに思う」と思っているだろうか。  
それとも、心身ともに疲弊した後輩たちを見ながら、やるせない気持ちになっているのだろうか。  
おそらく、後者の回答を希望するものは誰一人としていないと思われます。  
そこで、後者の回答を実現させる唯一の方法をお伝えします。  
それは・・・拡大です。  
ただ単に【受付の人員が足りないから】【誘導や駐車場係の人手が足りないから】といった話ではありません。  
あなたがJCI福岡に入会し、今日を迎えるまでに数えきれないほどの多くのメンバーと語り合い、時にはぶつかり合いながらも過ごすことでできた強固な絆や生涯の仲間。  
あなたがJCI福岡で、様々な経験をしてきたからこそ生まれた相手を思いやる優しさや、家族、社員や地域の方々への感謝。そして成長。  
なんだかんだいいながらも、今日までJCを辞めていない理由・・・「やっぱりJCがスキだ」  
この、あなたなりの【JCがスキ】を一人でも多くの友人や仲間に伝えてほしい。  
その出会いが人生を、よりよくする。  
【集めるJC】ではなく【集まりたくなるJC】へ。  
年間どうぞよろしく願い申し上げます。

### ●事業計画

- ◇会員拡大に関する事項
  - 〈目的〉 JCI福岡を持続的に運営していくため。
  - 〈方法〉 各委員会最低8名の会員拡大。
- ◇7月度講師公開例会
  - 〈目的〉 対内：拡大に対する意識や行動をポジティブに変革させる。  
対外：JCI福岡への会員拡大につなげる。
  - 〈方法〉 拡大に適した講師をお招きし、講演会を開催する。
- ◇70周年実行委員会に関する事項
  - 〈目的〉 70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。
  - 〈方法〉 70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。
- ◇2024年度全国大会準備に関する事項
  - 〈目的〉 全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。
  - 〈方法〉 対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉 非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
  - 〈方法〉 日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年 11月			6月		ブロック大会（柳川） トリオ会議 アスパック（ジャカルタ）
12月	□討議□審議（拡大会議設置議案）		7月		国際アカデミー サマーコンファレンス 事業実施（7月度講師公開例会）
2023年 1月		京都会議	8月	□討議□審議（講師公開例会報告）	九州コンファレンス（熊本）
2月		第3エリア合同例会	9月		
3月			10月		全国大会（東京）
4月	□討議□協議（講師公開例会計画）	対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月		世界会議（チューリッヒ）
5月	□討議□審議（講師公開例会計画）	JCI広島定期交歓会	12月	□討議□審議（拡大会議設置報告）	送るタベ





室 長 三 浦 隆 祐

## ●基本方針

JCI福岡は、2023年に70周年を迎えます。2024年10月には過去3度に渡りに福岡の地で開催した、JCI日本主催の全国大会を、JCI 福岡が4度目の主管 LOM として「公益社団法人日本青年会議所 第73回全国大会 福岡大会」を開催することが決定しています。

全国大会を主管するということは、FUKUOKAやLOMに様々な益をもたらします。地域益・主管益・参加者益・主催者益・社会益の5つです。大勢の来福者が地域に与える益はもちろんのこと、我々が生まれ育ったFUKUOKAの地をよく知り、仲間と協力して大会を構築することはLOMにもメンバーにも多くの発展と成長の機会を与えてくれるはずです。

全国大会の成功は 主催者であるJCI日本をはじめ、ブロック協議会や地区協議会、OB・シニアの先輩方、行政、他団体との密な連絡調整なくして実現できません。大会そのものを左右するといっても過言ではない「素早く正確な情報共有」の要として全国大会準備室は機能します。全国大会を他人事で終わらせてしまわないためにも、LOMのメンバー一人ひとりを巻き込み、JCI福岡らしさにこだわり、総力を以て万全の準備を両委員会と共に行って参ります。

# 全国大会準備第1委員会

## 委員会スローガン【自分のためではなく、誰かのためにまちに必要な青年経済人になろう】



### ●基本方針

2024年度第73回全国大会の主管が決まっていますが、全国大会は単なる一過性のイベントではなく、これからの福岡のまちのビジョンを達成するための重要な装置だと捉えています。今の福岡の課題はなにか、今後どんなまちをめざすのか、そこに向けてJCI福岡が果たす役割は何なのか、JCの活動の根本にしっかりと向き合う1年にしていきます。そして、その結果、どんな開催理念のもと、どんなファンクションを、どんな団体と連携をして構築していくのか、どんな福岡のまちを全国へ発信していくのか、全国大会前年度として、JCI福岡だからこそできる全国大会の形を描いていき、多くの団体や行政を巻き込み、当該年度に向けた機運の醸成を図ってまいります。そして、その活動や思考を通して、一人ひとりのメンバーが、より青年経済人として成長することを目指します。全国大会はJCI福岡としても、大きな成長の機会となるように取り組んでまいります。

委員会運営としては、メリハリを付けた運営を目指し、スケジュールリングと事前準備を徹底し、メンバーが何かを犠牲にしなくて済む、余裕をもった生産性の高い委員会を目指します。どんな仕事や家庭の環境であっても、そのメンバーなりの委員会への貢献の形を模索し、すべてのメンバーに長所を活かした役割を与え、委員会活動に関わって欲しいと考えます。自分のためではなく、メンバーのため、そしてまちのために動ける、主体性をもったメンバーの育成を掲げ、自由で自発的なアクションを期待しています。そのために、メンバー一人ひとりの長所短所を全員が互いに把握し、それぞれの長所を活かした役割を全うできるよう、短所をお互いに笑ってカバーしあえる関係性を構築します。

改めて、まちのために動くJC活動のやりがいや、メンバー1人ひとりと信頼しあえる仲間になっていく嬉しさ、そしてチームとして事業をやり遂げる達成感を全員に味わってもらえる委員会を目指してまいります。

### ●事業計画

- ◇2024年度全国大会実施に向けた、各青年会議所との連携・準備
  - 〈目的〉全国大会に向けて、各団体と友好な関係性を構築すること。
  - 〈方法〉開催理念の策定・各ファンクションの詳細決定・地区、ブロックとの連絡調整・シニアクラブとの連絡調整。
- ◇公開例会の実施（10月全国大会第2委員会との合同）
  - 〈目的〉各関係各所への全国大会の周知、LOM内の機運醸成を図ること。
  - 〈方法〉講師を招聘して、全国大会の意義や素晴らしさをLOM内外に向けての発信。
- ◇対話集会に関する事項
  - 〈目的〉全国大会運営会議との連携強化とLOM内の機運醸成を図ること。
  - 〈方法〉対話集会・現地調査をLOM一丸となり準備し、全国大会運営会議へ福岡の可能性を感じてもらおう。
- ◇2024年度全国大会実施にLOMへの勉強会の開催
  - 〈目的〉LOM内の全国大会の機運醸成を図ること。
  - 〈方法〉全国大会の開催意義や内容を対内メンバーと共有する。
- ◇九州地区大会（熊本）への参加促進
  - 〈目的〉九州地区協議会との関係を深め、全国大会当該年度までに強固な協力関係を構築すること。
  - 〈方法〉地区大会のPRを強化し、積極的に地区大会への参加をすることで、さらなる関係構築を行う。
- ◇70周年実行委員会に関する事項
  - 〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をととして、これからのJC活動への機運を高めること。
  - 〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
  - 〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。
  - 〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直すことができるように意識的に行動する。
- ◇非常災害における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
  - 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年					
11月			6月	□討議□討議□討議□討議（開催理念・ファンクション事業計画）	ブロック大会（柳川） トリオ会議 アスパック（ジャカルタ）
12月			7月	□討議□討議□討議□討議（開催理念・ファンクション事業計画）	国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年					
1月		京都会議	8月	□討議□協議□（講師公開例会計画議案）	九州コンファレンス（熊本）
2月		第3エリア合同例会 70周年記念式典	9月	□討議□審議□（講師公開例会計画議案）	
3月		70周年記念事業	10月		全国大会（東京）
4月		対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月	□討議□審議□（講師公開例会報告議案）	世界会議（チューリッヒ）
5月		JCI広島定期交歓会	12月		送るタベ



# 全国大会準備第2委員会

## 委員会スローガン【密から生まれる可能性・人への感謝と思いやり】



委員長 佐伯 公大  
副委員長 小菅 良助  
拡大統括幹事 高見 慎也  
運営幹事 國松 祥治  
会計幹事 牛島 淳嗣  
広報幹事 濱 直章  
馬場 秀一  
岩下 優典  
尾花 一樹  
坂元 太施  
坪井 智之  
針尾 洋平  
吉弘 慎一郎

### ●基本方針

70周年を迎えるJCI福岡。これまで先輩方は福岡のまちづくりを本気で考え汗を流し、プロ野球チームの誘致などまちの発展と活性化を考え行動してきました。2024年度には全国大会の主管が決まっており、全国大会に向けてJCI福岡のさらなる発展を目指し、福岡の魅力を発信していきける準備をしていきます。先輩方が築き上げてきたJCI福岡。さらに魅力を高めていくために、まちへの想いを抱きしめて行動する勇気をもって、まちのためにメンバーへの成長となるように取り組んでいきます。

自然に溢れ、四季折々の食、景観など恵まれている日本。先人たちが築き上げてきた、日本の文化を受け継ぎ伝えていかななくてはなりません。欧米化が進み、日本の文化・日本人としての心が失われている昨今、日本を知り、日本人としての心を大切にしていきます。

全国大会準備第2委員会では、行政との連携を強固なものにできるように全国大会記念事業の企画・立案を行って参ります。まちのために何を必要とされているのかを導いていけるようにヒアリングをしっかりと行い、つくり上げていきます。まち全体を巻き込み、全国大会・全国大会記念事業をやってよかったとJCメンバー、行政や各団体等からいわれるような「全国大会が有する5益の中でも地域益を重視した」事業の準備を行って参ります。

コロナ禍で希薄化した人との関わり方、リアルからWEBになり、集う手法が変化していますが、リアルに集うことで、人への感謝と思いやり、想いをぶつけ合うことで、多くの気づきやかかけがいのない仲間をつくっていけるように、集う機会を多くつくっていききたいと思えます。

また、WEBも活用しながら効率を上げる工夫もしていきます。集うことで、お互いの想いや夢を語り合い、密になることで人への感謝とまちの明るい未来への原動力が生まれ、委員会メンバー同士が高めあえる委員会運営を行って参ります。楽しい場、ぶつかり合いながらもしんどいことを一緒に乗り越えていける機会をつくっていきます。

### ●事業計画

◇2024年度全国大会実施に向けた、行政・企業・他団体との連携・準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、福岡の魅力、これぞ福岡と感じてもらうための行政や各団体と有効な関係を構築する。

〈方法〉行政や各団体へのヒアリングを行い、福岡らしい全国大会開催への巻き込みをつくっていきます。

◇公開例会の実施（10月全国大会第1委員会との合同）

〈目的〉各関係各所への全国大会の周知、LOM内外の機運醸成を図ること。

〈方法〉講師を招聘して、全国大会の意義や素晴らしさをLOM内外に向けての発信。

◇対話集会に関する事項

〈目的〉全国大会運営会議との連携強化とLOM内の機運醸成を図ること。

〈方法〉対話集会・現地調査をLOM一丸となり準備し、全国大会運営会議への福岡の可能性を感じてもらう。

◇2024年度全国大会実施にLOMへの勉強会の開催

〈目的〉LOM内へ全国大会の意識の醸成を図ること。

〈方法〉全国大会の開催意義や内容を対内メンバーと共有する。

◇香港シティJCIに関する事項の補助

〈目的〉JCI香港シティとの関係を深め、互いの文化を理解することで、国際感覚を身に付けていただくこと。

〈方法〉互いの周年事業への参加をすることで、さらなる関係構築を行う。

◇70周年実行委員会に関する事項

〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をととして、これからのJC活動への機運を高めること。

〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。

〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

◇2024年度全国大会準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。

〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行事		上程スケジュール	行事
2022年					
11月			6月	□討議□討議□討議□討議（全国大会記念事業計画）	ブロック大会（柳川） トリオ会議 アスパック（ジャカルタ）
12月			7月	□討議□討議□討議□討議（全国大会記念事業計画）	国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年					
1月		京都会議	8月	□討議□協議（講師公開例会計画議案）	九州コンファレンス（熊本）
2月		第3エリア合同例会 70周年記念式典	9月	□討議□審議（講師公開例会計画議案）	
3月		70周年記念事業	10月		全国大会（東京）
4月		対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月	□討議□審議（講師公開例会報告議案）	世界会議（チューリッヒ）
5月		JCI広島定期交歓会	12月		送るタベ



室 長 中之蘭 匡伸

## ●基本方針

交流にはどのような力が秘められているのか。

異なる地域、組織の間で人や物事が互いに行き来し連携を取ることで課題に対して効果的な結果を生み出し、さらに関係の構築次第では新たな価値を創造することもできます。その可能性は無限大であり、成長し続ける都市福岡を、さらなるステージへと押し上げるには必要不可欠です。

JCI福岡でも70年の歴史の中で様々な交流の機会を創出し福岡の発展に寄与してきました。成功も失敗も含め、その機会が福岡のまちの形成へどのような波及をもたらしたのか、そのとき何に基づいて行動したのかを考えることは、私たちが直面する問題に対する有益なヒントを与えてくれるはずです。

対外交流室では先人たちが築き上げてきた福岡を知るとともに新たな取り組みや枠組みを創造し、既成概念にとらわれることなく国際・他団体・行政・学校・民間企業と共に活動するための連携強化・関係構築を目指します。

お互いを活かしながら共働することでFUKUOKAをバックアップし、より豊かな社会の実現に寄与する運動となるように、青年らしく足を使い情熱をもって邁進いたします。

# 国際交流委員会

## 委員会スローガン【信念】



### ●基本方針

新型コロナウイルスの影響により積極的に行動できない日々が今も続いております。行動ができなかった時期に失われたものも多いと思いますし、変化した事柄も多いでしょう。しかしながら、だからこそ、福岡のみならず国際的にも交流が必要なのではないでしょうか。

世界がグローバル化する中、私たちが住み暮らす福岡は国際的にはどのように映っているのでしょうか。実際、福岡だけに目を向けていては気づかないことがあるかもしれません。自らでは気づくことのできない福岡の魅力を、国際交流を図ることで再認識する機会を得ることができると考えます。そこには、福岡だけではなく、国際的な目線が必要です。我々が住む福岡を主体としたことだけに目を向けるのではなく、世界全体と共に発展していく中で福岡が主体となりえる可能性を少しでも高めることが重要と考えます。

国際都市といわれるまちは多々あります。そのまちはそれぞれの特徴があり、人々を引き付けています。その中で、福岡の強み、潜在的ポテンシャルを最大限に活用し、福岡市独自のスタイルを確立することを目指します。外国人材の受け入れや活用、地域人財のグローバル化の推進などにより、地域経済活性化、次代を担う人財の育成、まちの魅力向上などの課題解決につなげます。

伝える、つながる、育てるの三つの視点で国際展開力を高める取り組みを推進いたします。

伝える・・・世界を牽引し国際社会に貢献する都市

つながる・・・多様な人々が集い、快適な生活が可能な都市

育てる・・・国際的に活躍する人が育つ都市

1年間委員会メンバーと共に、国際交流について考え3つの視点からどんな可能性が福岡にあるのか、自己の可能性を追求し新たなステージへチャレンジしていきます。委員会をはじめとする会議体で周囲の方からの意見を柔軟に取り入れながら、余力を残さず、みんなで駆け回ります。

### ●事業計画

◇国際都市推進に向けた交流事業の実施に関する事項

〈目的〉世界から見た福岡が魅力的なのか調査・研究し国際都市への推進を図ること。

〈方法〉行政や外部団体と連携し、福岡が国際都市の一助と成るべく交流事業を実施する。

◇APCC35周年に関する事項

〈目的〉APCC35周年を通して、APCCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉APCC事務局へのヒヤリングを行い、歴史や事業を理解する。

◇公開例会の実施（5月地域交流委員会と合同開催）

〈目的〉地域間、国際間での新たな交流を図るきっかけをつくり、今後の社会活動の場において有意義なものとしていただくこと。

〈方法〉様々な交流の手法を調査研究し、有識者も招いた講義の場を設け、LOM内外問わずより多くの聴衆を募る。

◇JCI香港シティに関する事項

〈目的〉JCI香港シティとの関係を深め、互いの文化を理解する。

〈方法〉互いの周年事業へ参加し、さらなる関係構築を行う。

◇JCIサウスサイゴンに関する事項

〈目的〉姉妹JCであるJCIサウスサイゴンとの交流を通し国際の機会の創出の補助をすること。

〈方法〉アフターコロナにおいてWEBなどを取り入れた新しい手段を考え最適な交際交流を図る。

◇ASPAC（ジャカルタ）への参加促進

〈目的〉ASPACの意義を理解していただき、様々なフォーラム・ファンクションに参加し、アジア・太平洋地域のJCの仲間と交流を深めていただくこと。

〈方法〉ASPACの内容を案内し、参加することの目的・意義を発信し、多くのメンバーにASPACに参加していただけるように発信する。

◇70周年実行委員会に関する事項

〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。

〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。

〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

◇2024年度全国大会準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。

〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

- 委員長 寺田 光 児
- 副委員長 重松 祐 樹
- 拡大統括幹事 橋本 剛
- 運営幹事 成富 崇 智
- 会計幹事 川島 裕 司
- 広報幹事 牛島 啓 慈
- 井ノ口 翼
- 岡村 悠 矢
- 竹田 一 国
- 田中 海 人
- 中野 篤 志
- 村山 真 人
- 山下 正 太

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事
2022年				
11月			6月	□討議□審議（5月合同公開例会報告） □討議□協議□協議（国際交流事業計画） ブロック大会（柳川） トリオ会議 アスパック（ジャカルタ）
12月			7月	□討議□審議□協議□審議（国際交流事業計画） 国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年				
1月		京都会議	8月	九州コンファレンス（熊本）
2月	□討議□協議（5月合同公開例会計画）	第3エリア合同例会	9月	
3月	□討議□審議（5月合同公開例会計画）		10月	全国大会（東京） 事業実施
4月		対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月	世界会議（チューリッヒ）
5月		JCI広島定期交歓会 5月合同公開例会実施	12月	□討議□審議□協議□審議（国際交流事業報告） 送るタベ



# 地 域 交 流 委 員 会

## 委員会スローガン【全員主役】



委員長 上田 久紀  
副委員長 長島 義弘  
拡大統括幹事 村上 瑠  
運営幹事 間嶋 弘幸  
会計幹事 池田 拓史  
広報幹事 松岡 健太  
木下 雅俊  
扠山 哲平  
須藤 恵里  
近永 征也  
富田 雄詞  
玻座真 彩子

### ●基本方針

新型コロナウイルスの感染拡大から3年が経ち、今ではそのフェーズも変わってアフターコロナ、ウィズコロナと呼ばれる時代に突入したといえるのではないのでしょうか。しかしながら、失われてきた人々の地域に根差した交流の機会は、未だ本来の姿に戻ったとはいえない現状があります。

私たちはそんな過渡期にある本年だからこそ、過去とまったく同じ手法に戻すのではなく、時代は変わったものだと捉え、新たな目的と手法によって交流の機会を創出し、進み続けるべきであると考えます。未来のまちのために継続的な関係とするべく、そのためにまずは、まちの人々の声を聴き、行政サービスの行き届かないところに着目する。そして、足を使ったJCらしい切り口での課題解決へ向けた動きこそが、より良い未来への発展につながると確信しています。

また、翌年には全国大会福岡大会を控えています。委員会メンバー一丸となって活動に取り組み、一人ひとりが大きく成長し目的意識を統一させる。その結果、共につくり上げた産学官民との良好な関係こそ、大会成功へ導く不可欠な要素になると考えています。

そして、交流や連携が求められているのは、私たちJCのLOM間でも同じことがいえるのではないのでしょうか。50年以上もの時をかけて先人たちが築き上げてきた、トリオJCとの交友関係をしっかりと継承し、各LOMの抱える課題や今後の展望を共有することで、互いの成長のきっかけとなる場を設けていきます。

最後に、地域交流委員会では「全員主役」のスローガンのもと、一つひとつの所務に全員が本気で取り組むことによって、JCのみならずその先の人生において非常に重要な学びを共有して参ります。限られたものがあり、限られたものが成長するのではなく、誰一人として置いていかない。全員がその手に確かな手応えを持ち帰っていただける委員会運営を心がけていきます。そうすることで、12月31日を迎える頃には必ずや固い、生涯続く絆で結ばれた委員会になると、私は確信しています。

### ●事業計画

#### ◇産学官民との共創に向けた交流事業の実施

〈目的〉未来を見据えたまちの発展へ寄与する事業が円滑に実施できるよう、産学官民とのより良い関係構築のきっかけとなること。

〈方法〉まちの課題を調査研究し、解決へ向けた動きを産学官民を巻き込んで共にする。

#### ◇公開例会の実施（5月国際交流委員会と合同開催）

〈目的〉地域間、国際間での新たな交流を図るきっかけをつくり、今後の社会活動の場において有意義なものとしていただくこと。

〈方法〉様々な交流の手法を調査研究し、有識者も招いた講演の場を設け、LOM内外問わずより多くの聴衆を募る。

#### ◇トリオ会議に関する事項

〈目的〉これまで育んできたJC下関、JCI釜山との交友関係を継承していくこと。

〈方法〉各LOMの抱える課題や今後の展望を共有し、互いの成長の場を共に設ける。

#### ◇JCI糟屋の事業支援に関する事項

〈目的〉スポンサーJCとして、依頼があった際には速やかに適切なサポート、支援を行うこと。

〈方法〉事業構築支援依頼があった際には、適切な人材の派遣、効果的なアドバイスをを行う。

#### ◇福岡ブロック大会（柳川）への参加促進

〈目的〉福岡ブロック協議会とビジョンを共有し、全国大会福岡大会も見据え関係を構築すること。

〈方法〉出向者と緊密に連携を図り、情報収集に努め、SNS等を通じ大会意義や目的を発信する。

#### ◇70周年実行委員会に関する事項

〈目的〉70周年を契機とした内外問わず関係者へと発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。

〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人材を輩出する。

〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

#### ◇2024年度全国大会準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。

〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年					
11月			6月	□討議□審議（5月合同公開例会報告） □討議□審議□協議□審議（地域交流事業計画）	ブロック大会（柳川） トリオ会議 アスパック（ジャカルタ）
12月			7月		国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年					
1月		京都会議	8月		九州コンファレンス（熊本） 地域交流事業実施
2月	□討議□協議（5月合同公開例会計画）	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議（5月合同公開例会計画）		10月	□討議□審議□協議□審議（地域交流事業報告）	全国大会（東京）
4月		対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月		世界会議（チューリッヒ）
5月	□討議□協議□協議□協議（地域交流事業計画）	JCI広島定期交歓会 5月合同公開例会実施	12月		送るタベ



室 長 吉 田 豊

## ●基本方針

文化とは「人間が学習によって社会から習得した生活の仕方の総称」であり、衣食住をはじめ、技術・スポーツ・芸術・学問・道徳など生活の様式を含み、物質的・精神的成果のすべてを指すものとされ、また文化にはその地域で生まれ洗練されてきた固有ものの意味合いが含まれるとされています。

社会の構造や人々の意識に急激な変化を余儀なくされた日々の中でも、人々のマインドに根付く普遍的な精神は、この文化に触れてきた経験から形成されるといえるのではないのでしょうか。コロナ禍の経験は、日々の喧騒から忘却の彼方となっていた自身に宿る大切な感性を改めて、見つめ直す良い機会となりました。

我々はこの経験を活かし、その大切な感性をまちへと波及させ、人々の創造性を育み、表現力を高めるとともに、心のつながりや相互に理解し尊重し合う、多様性を受入れることができる心豊かなFUKUOKAの実現へと昇華させる必要があります。

スポーツ文化委員会と芸術文化委員会が、人々の感性であるアイデンティティをより確固たるものにできるような事業を展開し、福岡を愛する能動的な市民、福岡ファンを一人でも多く生み出すという気概をもって精進して参ります。

# スポーツ文化委員会

## 委員会スローガン【For someone】



委員長 大幡 則文  
副委員長 森 重樹  
拡大統括幹事 手島 貴裕  
運営幹事 近藤 瑛理  
会計幹事 本園 和 大  
広報幹事 森 倫太郎  
秋 永 雄 太  
池 尻 将 悟  
上野 誠 司  
小池 直 人  
高島 恒  
野 満 圭 介  
吉 山 槇 一

### ●基本方針

スポーツはまちを元気にします。福岡においては、野球、サッカー、バスケットなどが根付いており、それらを応援することにより、市民にとって明日への活力となり、子供たちに夢と希望を与え、まちの誇りとなっています。JCI福岡がプロ野球球団やプロサッカーチームの誘致活動に取り組んできた歴史があるのも、スポーツ文化がまちにもたらす価値が大きいからに他なりません。

近年、福岡は人口増加数・増加率共に全国1位で特に若者が多く集まる都市へと発展しています。しかしながら、スポーツを行う施設は限られておりスポーツを楽しめる環境は非常に少ない状況です。スポーツに触れる機会も多く、全国でも珍しく若者が増えている福岡のまちのアドバンテージを今後もさらに発展させるためには我々青年がもつアイデアと行動力を、他団体・行政・民間企業と連携し、FUKUOKAのために最大限発揮する必要があります。

当委員会はスポーツを市民の日常に取り入れ身近に感じてもらい習慣化することにより、ウェルビーイング(身体的、精神的、社会的に良好な状態)につなげることを目的としています。

増加する若者をターゲットとしたスポーツ環境を整え、日常にスポーツを取り入れていただける「まちづくり」を産学官協力して行い、FUKUOKAの文化として日本、そしてアジア、さらには世界へFUKUOKAの魅力を発信するきっかけをつくります。

スポーツのもつ楽しさが日常生活の一部となれば、「する」「見る」「支える」どの局面においても人と人との交流につながり、それが地域の交流につながり、明るい豊かなまちづくりにつながると考えます。これからのまちをつくる若者が中心となり交流を広げる魅力的なまちをつくり、FUKUOKAのファンを増やしていきます。

自分たちの手で具体的にまちに対する働きかけをするため、委員会一丸となって調査研究を行い、市民が本当に必要とするまちづくりに積極的に立ち止まることなく行動を起こします。そして自分のためではなく、誰かのために率先して行動できる人財を育て、互いに成長できる委員会をつくって参ります。

### ●事業計画

#### ◇公開例会(4月)の実施

〈目的〉FUKUOKAのスポーツ文化の魅力と知識を広く発信し、参加者のスポーツ文化に対する興味関心を高める。

〈方法〉FUKUOKAのスポーツ文化に精通した有識者を講師としてお招きし、福岡のスポーツ文化に関する魅力についての講演。

#### ◇スポーツ文化を活用したまちづくり事業の実施

〈目的〉FUKUOKAのスポーツ文化の魅力と知識を広く発信し、スポーツを通じた心豊かに感じるまちづくりへの機運を高める。

〈方法〉FUKUOKAにおけるスポーツ文化の歴史、伝統、文化を調査・研究し、魅力的な福岡を広く伝える。

#### ◇70周年実行委員会に関する事項

〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。

〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。

〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

#### ◇2024年度全国大会準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。

〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年					
11月			6月		ブロック大会(柳川) トリオ会議 アスベック(ジャカルタ) 事業実施
12月			7月	□討議□審議□協議□審議(事業報告)	国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年					
1月	□討議□協議(4月度公開例会計画)	京都会議	8月		九州コンファレンス(熊本)
2月	□討議□審議(4月度公開例会計画)	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□協議□協議□協議(事業計画)		10月		全国大会(東京)
4月	□討議□審議□協議□審議(事業計画)	対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会 4月度公開例会実施	11月		世界会議(チューリッヒ)
5月	□討議□審議(4月度公開例会事業報告)	JCI広島定期交歓会	12月		送るタベ



# 芸術文化委員会

## 委員会スローガン【Be Original】



委員長 伊東 健太郎  
副委員長 麻生 良太  
拡大統括幹事 船越 幹治  
運営幹事 中原 有典  
会計幹事 秋月 早美  
広報幹事 瀬尾 昂平  
池田 英樹  
河面 洋平  
坂本 満康  
津田 浩  
富松 靖祐  
樋口 洸太  
古本 美由紀

### ●基本方針

福岡のまちでは社会の成熟が進み、人々の価値観や生き方が多様化したことで、解決すべき社会問題を取り巻く利害関係が複雑化しています。個々人の価値観や考えが尊重される時代において、幸福の形も個人によって異なります。その中で心身が健康で、社会的にも満たされた状態である「ウェルビーイング」が求められています。

その「ウェルビーイング」の実現において芸術は大きな役割を果たします。ひとは芸術に触れたとき、自分の中に隠れていた感情や、世の中に潜在する課題を客観的に捉えることとなります。その感情や課題をテーマに考え、その先の未来に想いを馳せることができます。芸術は我々にとって「未来」を考えるきっかけを与えてくれるものです。

まず、芸術を通じて生活の質を高めることができることを市民に再認識してもらうことが必要です。次に、芸術のまちとして福岡が今後さらなる発展をしていくためには、福岡のまちの日常を芸術で満たしていく必要があります。芸術的価値がある作品を集めるだけでは継続性がありませんので、福岡のまちから次々と若手アーティストが誕生し、活躍できるような環境づくりに注力していきます。事業を通じて、芸術の必要性を福岡市民に周知し、そして若手アーティストの活躍の場を提供することで福岡市民の生活の質を今まで以上に高め、「ウェルビーイング」の実現に寄与します。また、事業の発信を通じて新たな福岡のファンを獲得していきます。

芸術文化委員会のメンバー各々が妥協することなく、福岡の未来のために膝をつき合わせて真剣に考えることが必要です。芸術文化委員会としての事業の実施や委員会活動を通じて、芸術文化の無限の可能性を感じてもらい、今後の人生の糧にもらいます。まちのために考え付いたアイデアをどんどん実現していきましょう。順風満帆ではないこともあるかと思いますが、喜びも苦労も分かち合うことで一生涯の仲間が生まれる委員会運営をしていきます。

### ●事業計画

#### ◇公開例会の実施(3月)

〈目的〉「ウェルビーイング」の実現に何故芸術が必要なかを周知すること。

〈方法〉芸術文化に精通している有識者を講師としてお招きし、如何にして生活に芸術を取り入れるかの講演をいただく。

#### ◇芸術文化を活用したまちづくり事業の実施

〈目的〉福岡出身の若手アーティストが活躍すること。

〈方法〉福岡の若手アーティストの現状を調査し、活躍できる環境を整備する。

#### ◇70周年実行委員会に関する事項

〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へ発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。

〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。

〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

#### ◇2024年度全国大会準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。

〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年					
11月			6月		ブロック大会(柳川) トリオ会議 アスバック(ジャカルタ) 事業実施
12月			7月	□討議□審議□協議□審議(事業報告)	国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年					
1月	□討議□協議(3月度公開例会計画)	京都会議	8月		九州コンファレンス(熊本)
2月	□討議□審議(3月度公開例会計画)	第3エリア合同例会	9月		
3月		3月度公開例会	10月		全国大会(東京)
4月	□討議□審議(3月度公開例会報告) □討議□協議□協議□協議(事業計画)	対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月		世界会議(チューリッヒ)
5月	□討議□審議□協議□審議(事業計画)	JCI広島定期交歓会	12月		送るタベ





室 長 阿部 健太郎

## ●基本方針

2020年から続く新型コロナウイルス蔓延により多くの活動が制限されてきました。その中でも止まることなく、新たな手法を取り入れ新しい時代のJCの在り方を探し、前進を続けてきたJCI福岡ですが、この期間にも多くの新入会員がJCI福岡の仲間となり、本来のJC活動を理解できていない現状があります。また、インバウンドの減少から、まちの魅力を発信する機会が低下している今だからこそ、郷土愛を育み、明るい豊かな社会を創造する未来のFUKUOKAの基盤をつくるとともに、2年間にも及ぶ新型コロナウイルスの猛威による活動の縮小や、JCとしての存在意義、メンバー個々の意識改革を進めるためにも人財育成に力を入れる必要があります。

まず、人財育成室の各委員会には、事業を通してLOM内外との交流をもってもらいます。そして、未来を考え行動し続けることで、70周年という区切りの年をLOMの大きな転換期とするとともに、2024年に迎える全国大会を起爆剤として大きく発展するきっかけとなるよう、LOMや福岡の財産である未来のFUKUOKAを担う若者の育成を行います。

立ち止まらず、進み続ける姿を通して、未来のまちをつくっていきける人財へと成長させます。

# キッズアカデミー委員会

## 委員会スローガン【人が未来を創る】



委員長 田原 義也  
副委員長 濱田 正輝  
拡大統括幹事 春野 英理  
運営幹事 西方 亮祐  
会計幹事 山口 望  
広報幹事 前田 幹太  
市丸 浩太  
野上 俊彦  
原 誠一郎  
松田 敦朗  
村瀬 浩司  
横田 銀次  
渡邊 裕太郎

### ●基本方針

理事長所信にもあるように未来の福岡で先陣をきってより良い社会に導くのは、今の子供たちです。その子供たちが本気でまちのことを考えてくれるために、この福岡を好きになってもらうことが必要です。そのためにも当委員会では、子供たちが自分の住み暮らす福岡市に『郷土愛』をもってもらうことのできる事業構築を行って参ります。福岡のオンリーワンの魅力や伸びしろ、抱えている課題に触れ、考える機会を創出し、子供たちのみならずその子供たちの成長を一番近くで見守る保護者の皆様にもこの『郷土愛』を育んでもらえる事業にしていきたいと思います。

この郷土愛を育み、未来を切り開いていく力を培っていくための「学びと行動力」へとつながっていくような「経験」の両側面を兼ね備えた事業構築を目指して参ります。そして、その波及効果として未来のまちづくりが見えてくるはずであると考えます。

また2020年から拡大をみせた新型コロナウイルス感染症拡大は、様々な形で私たちの行動を制限させ続けてきました。しかし徐々に各種大会や事業も通常開催が可能となってきた今、新しいメンバーのみならず、多くのメンバーにとって一つひとつのイベントが貴重な経験へとようになっていくはずであると考えます。これらをメンバーの経験という形でLOMの財産として残していくためにも、参加すること、集うことが非常に重要であると私は考えます。それこそが先に控える全国大会の成功へと導いてくれるはずで

人を巻き込むこと、相集い絆を育むこと、そして同じ目的に共に歩みを進めること。これこそがJCI福岡が70年という歴史の中で行ってきた、『人づくりを通して、未来のまちをつくっていく』ことではないでしょうか。この委員会を通してメンバーが、それを学び、自らの会社や家族にアウトプットしていくことでメンバーひとりひとりを取り巻く「社会」が豊かなものとなっていき、JCI福岡が選ばれる団体として拡大していけるものであるはずで

メンバーが能動的な活動・発信をしていく環境をつくり、それに寄り添い成長させていく、そんな次世代のリーダーを育成して参ります。

### ●事業計画

#### ◇少年・少女に対するの育成事業の実施

〈目的〉未来の福岡をより良い社会へと導いていく、今の子供たちに『郷土愛』が生まれる活動の機会を創出すること。  
〈方法〉住み暮らす福岡市ならではの良さを学び・体験することで、その経験を率先して発信する機会を提供する。

#### ◇JCIサウスサイゴンに関する事項の補助

〈目的〉姉妹JCであるJCIサウスサイゴンとの交流を通し国際の機会の創出の補助をすること。  
〈方法〉アフターコロナにおいて新しい手段を考え最適な国際交流を図るなど、国際交流委員会と連携しその補助をする。

#### ◇70周年実行委員会に関する事項

〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。  
〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。  
〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力や体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

#### ◇2024年度全国大会準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。  
〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。  
〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年					
11月			6月		オールメンバーの集い ブロック大会(柳川) ASPAC(ジャカルタ)
12月			7月		キッズアカデミー事業開催 国際アカデミー サマーカンファレンス
2023年					
1月		京都会議	8月		
2月		第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議(キッズアカデミー 事業報告)	
3月			10月		全国大会(東京)
4月	□討議□協議□協議□協議(キッズアカデミー 事業計画)		11月		世界会議(チューリッヒ)
5月	□討議□審議□協議□審議(キッズアカデミー 事業計画)	JCI広島定期交歓会	12月		送るタベ

# ヤングアカデミー委員会

## 委員会スローガン【Think before you act】



委員長 伊達 高志郎  
副委員長 毛内 将元  
拡大統括幹事 安部 亮二  
運営幹事 笠 健太郎  
会計幹事 末 永純也  
広報幹事 中島 仁美  
大城 大  
大前 恒明  
下川 浩平  
松岡 慎治  
吉松 茂隆

### ●基本方針

JCI福岡は、設立以来、人づくり・まちづくりの団体として、福岡の発展に寄与してきました。時代が変わり、求められるものが変化したとしても、FUKUOKAをよくしたいと思う気持ちがまちづくりの中核にあることは変わりません。そして、未来のFUKUOKAが永続的に発展していくためには、将来を担う若者たちが積極的にまちづくりに関わり、まちをよくしたいと思う気持ちを広げていくことが必要不可欠となります。

特に、近年唱えられている地方創生を成し遂げ、FUKUOKAが九州の中核都市としてさらなる発展をするためには、未来を担う若者がまちへの誇りを持ち、地域をより良い場所にするために、自身がかかわっていくという当事者意識をもって、主体的に活動していくことが肝要となります。

そのために、当委員会では、若者たちのまちへの誇りを高め、郷土愛を醸成する事業を行います。ここでいう郷土愛は、単にまちの自慢というものではなく、自身のアイデンティティの根幹に関わる帰属意識につながるものがあります。その帰属意識が能動的市民の原動力となり、FUKUOKAの発展の基礎となっていきます。

また、この事業を通じて、委員会メンバー自身にも、当事者意識をもって行動することの大切さを学んでいただきます。誰かがやってくれるのではなく、自分自身が率先してやるのだという意識をもって行動することで、そこで得られる経験は他に代えがたいものになっていきます。また、メンバー一人ひとりが、自分自身の頭で考え率先して行動することで、JCI福岡の中核となるメンバーへの成長につながります。そして、行動する前に必ずどのような意図をもって行うのか、自分の行動がほかの人にどのように映るのか、自分の行動が他人に与える影響についてしっかりと考え、責任をもって行動するよう心がけることで、委員会メンバー全員が同じ目標に向かって全力で取り組むことへとつながり、苦楽を共にすることで一生涯の仲間になると確信しています。

### ●事業計画

◇高校生、大学生もしくは専門学生に対する育成事業の実施

〈目的〉ヤング世代の若者の郷土愛を高め、FUKUOKAを活性化させる人財を育成すること。

〈方法〉若者の現状と課題を調査・研究し、まちへの誇りを高め郷土愛を醸成する事業を実施する。

◇トリオ会議に関する事項の補助

〈目的〉これまで育んできたJCI下関、JCI釜山との交友関係を継承していくこと。

〈方法〉各LOMの抱える課題や今後の展望を共有し、互いの成長の場を共に設ける。

◇70周年実行委員会に関する事項

〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をおとして、これからのJC活動への機運を高めること。

〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。

〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオープンなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力や体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

◇2024年度全国大会準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。

〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年					
11月			6月		ブロック大会(柳川) トリオ会議 アスバック(ジャカルタ)
12月			7月		国際アカデミー サマーコンファレンス 事業実施(ヤングアカデミー事業)
2023年					
1月		京都会議	8月		九州コンファレンス(熊本)
2月		第3エリア合同例会 70周年記念式典	9月		
3月		70周年記念事業	10月	□討議□審議□協議□審議(ヤングアカデミー 事業報告)	全国大会(東京)
4月	□討議□協議□協議□協議(ヤングアカデミー 事業計画)	対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月		世界会議(チューリッヒ)
5月	□討議□審議□協議□審議(ヤングアカデミー 事業計画)	JCI広島定期交歓会	12月		送るタベ



# 研 修 委 員 会

## 委員会スローガン【Start Your Impossible】



委員長 本村 大  
副委員長 平松 雅敏  
拡大統括幹事 後藤 雄治  
運営幹事 藤岡 勇樹  
会計幹事 高山 伸太郎  
広報幹事 三浦 匠  
泉 雄介  
佐伯 瞳  
谷川 進也  
山田 依未  
吉村 稔

### ●基本方針

JCはひとつづくりを通して未来のまちをつかっていく団体です。そして、明るい豊かな社会を実現するために、修練・奉仕・友情の三信条のもとJC運動を展開しています。このJC運動を通して様々な機会を得ることで、いかに家庭や仕事にアウトプットしていくかを考え、実行していく必要があります。

JCI福岡では70年の歴史の中でひとつづくりを通して福岡のまちをつかってきた歴史があります。そのひとつづくりの要ともいえる「研修委員会」こそ、ポジティブチェンジを与えるための成長・機会を与える場として代々受け継がれてきました。2024年10月の全国大会 福岡大会を迎えるにあたり、強い覚悟と責任をもった率先して行動するリーダーの早期育成が必要不可欠です。

本年度研修委員会では仮入会者への指導・研修において出会いや学びを通して、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるリーダーを育成するためのオリエンテーションを行います。新入会同期会事業では入会1周年のお祝いを行うことで、兄弟同期との絆づくり、メンバーとの交流、JCの仕組みを理解することを目的とし、指導を行います。そして、新入会研修を通して、団体としての存在意義や目的や理念を理解しJAYCEEとしての活動を前向きに行うメンバーの育成を行います。

「Start Your Impossible」＝「できないと思っていることも始めてみよう」のスローガンのもと、何ごとにも恐れず挑戦することで、その一歩が新たな道となり、その道を創造できるリーダーの育成を行います。何ごとにも感謝の心を念頭に、手間を惜しまず工夫を凝らし、思いやりをもって行動することで、研修委員会が行う庶務やLOMの事業の意味を理解し、仕事・家庭・自己成長につながる機会とし、有意義で楽しいものに導いていきます。所務においては「準備が9割」だと考えます。どのような場面においても委員会メンバーを巻き込み、生き生きと活躍できる機会を提供し、指導して参ります。「KEEP GOING」立ち止まらず進み続けることで、委員会メンバーが成長を実感できる1年間とし、委員会メンバー一人ひとりが光り輝き、LOMの基盤をより強固なものにつながる運営・指導を行っていきます。

### ●事業計画

#### ◇仮入会への指導・研修に関する事項

〈目的〉誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。

〈方法〉オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を経験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

#### ◇新入会同期会事業に関する事項

〈目的〉新入会者が兄弟同期・同期との絆・メンバーとの交流・JCの仕組みを理解する。

〈方法〉研修委員会の指導のもと、事業構築のルールを学び、1年前に入会した同期会（兄弟同期）の1周年のお祝い事業を時代の変化に対応した形での企画・実施を行う。

#### ◇JCI糟屋の研修に関する事項

〈目的〉スポンサーJCとして役割である新設LOMの支援をJCI糟屋と連携を取り新入会・現役メンバーに指導と研修を行う。

〈方法〉JCI糟屋から研修支援依頼があった場合は、組織的かつ効果的な研修プログラムを行う。

#### ◇70周年実行委員会に関する事項

〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。

〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。

〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を経験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

#### ◇2024年度全国大会準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。

〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年					
11月	□討議□協議（前期オリエンテーション事業計画）		6月	□討議□審議（前期オリエンテーション事業報告）	ブロック大会（柳川） トリオ会議 アスピック（ジャカルタ） 中期オリエンテーション② ところてん事業実施・前期仮入会
12月	□討議□審議（前期オリエンテーション事業計画）		7月	□討議□協議（後期オリエンテーション事業計画）	国際アカデミー サマーコンファレンス 中期オリエンテーション③
2023年					
1月	□討議□討議□討議□討議（ところてん事業計画・後期仮入会）	京都会議 前期オリエンテーション①	8月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業計画）	九州コンファレンス（熊本）
2月		第3エリア合同例会 70周年記念式典 前期オリエンテーション②	9月	□討議□討議□討議□討議（ところてん事業報告・前期仮入会） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業計画・中期仮入会）	後期オリエンテーション①
3月	□討議□協議（中期オリエンテーション事業計画）	70周年記念事業 前期オリエンテーション③ ところてん事業実施・後期仮入会	10月	□討議□審議（中期オリエンテーション事業報告）	全国大会（東京） 後期オリエンテーション②
4月	□討議□審議（中期オリエンテーション事業計画） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業報告・後期仮入会）	対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月		世界会議（チューリッヒ） 後期オリエンテーション③ ところてん事業実施・中期仮入会
5月	□討議□討議□討議□討議（ところてん事業計画・前期仮入会）	JCI広島定期交歓会 中期オリエンテーション④	12月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業報告） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業報告・中期仮入会）	送るタベ



室 長 榎 洋 章

## ●基本方針

移りゆく時代の中で、JCI福岡が70周年を迎える本年、対内交流室として長きにわたり培われてきた「交流」の意義、世代は違えど同じJAYCEEである諸先輩方から紡がれてきたものを、いかに次世代へつないでいくべきなのかを再確認する必要があります。

しかしながら、世代が変われば世情も変わり、それに合わせるようにメンバー同士の関係性の希薄化が目立つように思います。この状況下であるからこそJCI福岡としての存在意義を再確認し、そして対内に拘らず門戸を広げ、今後の活力になる運営を目指して取り組みます。

また「会員交流委員会」「親睦交流委員会」「広報渉外委員会」の3委員会は、変えてはならない部分は大切に守り、変えるべきところは変えていく。JCI福岡の伝統を大切にし、改めて足元をしっかりと見つめ直し、新しいことにチャレンジし続ける1年間にして参ります。

そして本年度は「日本JCじゃがいもクラブ西日本選手権大会」をJCI福岡が主幹致します。ゴルフというスポーツを通じ、対内外の皆様との交流の機会とし、設営する自分たちも成長の機会となるようLOMを巻き込み取り組んでまいります。

最後にこの1年間が情熱的なものになるように、3委員会で共有し、それぞれが立ち止まらず、今一度強固なJCI福岡をつくっていきます。

# 会 員 交 流 委 員 会

## 委員会スローガン【on も off も全力 enjoy ～何事にも楽しみを見出そう】



委員長 武田 哲志  
副委員長 小木曾 圭太  
拡大統括幹事 千種 祐香  
運営幹事 安良岡 成晃  
会計幹事 合谷 賢太  
広報幹事 松村 裕康  
赤間 大地  
今泉 孝太郎  
今宮 誠司  
熊谷 平助  
保利 一晶  
三苦 弘典  
諸留 佑介

### ●基本方針

交流という言葉には「異なる地域や組織の間で人や物事が互に行き来すること」という意味があります。しかし、コロナ禍で人と人との交流の仕方は大きな変化を迎えました。直接会って接することによって築かれてきた関係性は、画面越しになり心の距離までも感じてしまう寂しいものにならざるをえませんでした。

そして、コロナ禍が落ち着いてきた今こそ、その状況が好転することをただ待つのではなく、自ら考え行動し変革させることが求められています。

JCI福岡は、人との関わり方が変化した今こそ、新たな手法を用いた新しい関係性を構築する時期に差し掛かっているといえます。

JCI福岡は今年、創立70周年を迎えました。私はこの記念すべき年を現役会員として迎えられたことに喜びを感じています。そして、諸先輩方によって受け継がれてきたJCI福岡の歴史や功績・伝統を、社会の変化に応じて後世へつなぐ使命があると考えます。それにはメンバー一人ひとりの力だけでなく、全員が強い志をもって結束し、行動しなくてはなりません。この結束力を生み出すためには、日頃からメンバー同士がお互いを理解し信頼し合うことが重要であると考えます。現在のJCI福岡は歴の短いメンバーが多く、お互い知らないことがまだまだあります。相手の興味・関心事をきっかけにメンバー同士の関係性を広げて、メンバー自身が成長できる機会を提供していきます。

本年度、会員交流委員会はメンバー同士が深く理解し合える活動を展開します。今よりも相手のことを深く理解し、より強い信頼関係を構築し強く結束したJCI福岡を目指します。また、今までのJCI福岡を築き上げてこられた諸先輩方や各諸団体との交流を絶やすことなく、様々な知識や経験を吸収し、メンバーの確かな成長を追求し続けます。さらには日頃から支えてくれている家族や会社の人たちへの感謝を忘れずに活動することで、より信頼関係の強い団体へ成長すると確信しています。

### ●事業計画

#### ◇福岡ブロック協議会第3エリアとの会員交流事業の企画・実施

〈目的〉5つのLOMが翌年の全国大会へ向けて連携強化を図ることでさらなる機運を高めること。

〈方法〉JC活動に活かせる情報の交換の場を提供し、会員会議所の相互の交流を図れる事業を展開する。

#### ◇じゃがいもクラブの設営・運営

〈目的〉シニアメンバーと現役メンバーが趣味を通じて親睦を深めること。

〈方法〉会長、キャプテンと連携し、会の運営が円滑に進むようサポートする。

#### ◇西日本じゃがいもクラブ福岡大会の設営・運営

〈目的〉JCのシニアおよび現役で構成されるゴルフの榮譽ある伝統の精神を普及発展せしめゴルフを通じてJC理念の滋養に資すること。

〈方法〉LOM全体と連携をし、会の運営が円滑に進むようサポートする。

#### ◇70周年実行委員会に関する事項

〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をとおり、これからのJC活動への機運を高めること。

〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人材を輩出する。

〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を経験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

#### ◇2024年度全国大会準備に関する事項

〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。

〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年					
11月			6月		ブロック大会(柳川) トリオ会議 アスパック(ジャカルタ)
12月			7月		国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年		京都会議	8月	□討議□協議□協議□協議(会員交流事業計画)	九州コンファレンス(熊本)
1月			9月	□討議□審議□協議□審議(会員交流事業計画)	
2月		第3エリア合同例会	10月		全国大会(東京) 事業実施
3月			11月	□討議□審議□協議□審議(会員交流事業報告)	世界会議(チューリッヒ)
4月		対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	12月		送るタベ
5月		JCI広島定期交歓会			



# 親 睦 交 流 委 員 会

## 委員会スローガン【自らが動くことで成長し、幸せを生み出し続ける愛に溢れる委員会】



委員長 立部 真 康  
 副委員長 古賀 彩 華  
 拡大統括幹事 新家 正 久  
 運営幹事 中川 昂 大  
 会計幹事 白水 雄 二  
 広報幹事 岡崎 竜 也  
 甲斐 祐 樹  
 坂梨 高 介  
 杉島 真 帆  
 中間 悠 介  
 中村 拓 也  
 濱野 雅 行

### ●基本方針

本年度、70周年という節目を迎えるJCI福岡ではこれまで多くの想いを先輩たちから受け継いできました。昨今、関係性の希薄化が懸念されている反面、「新しい生活様式」に代表されるような時代に即した運営が望まれている現状がある中、趣味の会や卒業生を送る夕べを通して改めて先輩たちや卒業生と交流を図ることで再度受け継いできたその想いを認識することが必要です。JCは設立当初からこれまで大切に、脈々と受け継いできた修練・奉仕・友情の三信条を改めて理解し、時代に即し率先して行動し続ける団体であるためにも先輩たちや本年度卒業を迎える58年生の想いを知り、受け継いでいく事が必要不可欠です。

そのためにまずは、各趣味の会の支援、設営を通して現役メンバーとシニアメンバーが交流を図る機会をつくるとともに趣味の会の魅力を発信していきます。また、これまで尽力してきた58年生の想いを知る場として、全国大会(東京大会)への参加促進を行ない、LOMナイトでは58年生のこれまでの功労、功績を後につないでいくメンバーへ伝える機会をつくります。そして、その後に続く卒業生を送る夕べでは卒業生全員に花道を飾り、現役メンバー、シニアメンバーの皆様これまでの活動や想いを知っていただく場をつくります。さらに、卒業生を送る夕べを通じて各委員会との連携を図りシニアメンバーとの交流の場をより多くつくることでシニアメンバーの歴史を知る、より良い機会を提供致します。

最後に、必ず40歳で卒業を迎えてしまうこの運動で、58年生全員が来たるべき日を笑顔で幸せに迎えていただくためにも、まずは自らが動く事で委員会メンバー全員が能動的に動き、ひとつひとつの機会や出合いを大切に、メンバー全員で成長していけるかけがえのない一年をつくっていきます。JCをやってきたからこそできる人としての成長、仕事としての成功、家庭の幸せを必ず実現し、委員会メンバー全員の幸せと成長につなげ、一年間を通して挑戦することの大切さと、その課程で生まれる委員会の絆を大切に、無償の愛を委員会メンバーに与え続けることで常に前へ進み続ける情熱的な愛に溢れる人財の育成を行っていきます。

### ●事業計画

- ◇卒業生を送る夕べの企画・実施に関する事項
  - 〈目的〉 JCI福岡を卒業される58年生の皆様の新しい門出を、現役メンバーやシニアメンバーと共に祝いし、感謝と現役メンバーへの想いをつなげる場を企画・実施すること。
  - 〈方法〉 定期的に58年生との交流の場をつくることで卒業生同士や家族との絆を深め、思い出深い送る夕べとなるように設営を行う。また、より多くのシニアメンバーにも参加いただけるように各委員会と連携し参加促進を行う。
- ◇ぼうふら会の設営・運営に関する事項
  - 〈目的〉 現役メンバーとシニアメンバーが、趣味の会を通じて交流をすることで親睦を深めること。
  - 〈方法〉 会長・キャプテンと調整を図り、ぼうふら会の設営・運営を行う。
- ◇迷球会・FJCPONZ・ノーサイドクラブ・茶道同友会の支援に関する事項
  - 〈目的〉 現役メンバーとシニアメンバーが、趣味の会を通じて交流をすることで親睦を深めるとともに各趣味の会をサポートすること。
  - 〈方法〉 各趣味の会の歴史と伝統を理解し、設営・運営の補助を行うとともに、各種趣味の会の魅力を、まだ経験したことがないメンバーへ向け発信する。
- ◇全国大会(東京)への参加促進、LOMナイトの企画・実施に関する事項
  - 〈目的〉 JCI福岡のメンバーに全国大会の意義を知っていただき、LOMナイトでは卒業される58年生一人ひとりを知っていただき、メンバー同士の懇親を深め送る夕べへとつなげること。
  - 〈方法〉 全国大会の各種行事を案内し、JCI日本のプログラムに参加いただくことで大会の意義であるJC運動を共有する。LOMナイトでは卒業生の皆様の記憶に残るLOMナイトを設営する。
- ◇70周年実行委員会に関する事項
  - 〈目的〉 70周年を契機とした内外問わず関係者へと発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。
  - 〈方法〉 70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
  - 〈目的〉 JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。
  - 〈方法〉 各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。
- ◇2024年度全国大会準備に関する事項
  - 〈目的〉 全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。
  - 〈方法〉 対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉 非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
  - 〈方法〉 日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事
2022年				
11月			6月	ブロック大会(柳川) トリオ会議 アスバグ(ジャカルタ) ぼうふら会
12月			7月	国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年				
1月		京都会議	8月	□討議□協議□協議□協議(送る夕べ事業計画) 九州コンファレンス(熊本)
2月		第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議(送る夕べ事業計画) ぼうふら会
3月		ぼうふら会	10月	全国大会(東京)
4月		対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月	世界会議(チューリッヒ)
5月		JCI広島定期交流会	12月	送る夕べ ぼうふら会



# 広 報 渉 外 委 員 会

## 委員会スローガン【家庭、仕事、JC。三位一体で常にチャレンジを。】



委員長 日野 修 治  
副委員長 西口 昌 宏  
拡大統括幹事 坂田 裕 之  
運営幹事 千代田 明 久  
会計幹事 松尾 恵 介  
広報幹事 米村 祐 太  
右近 将 司  
内野 蓉 子  
佐藤 大 輔  
菅原 是 道  
田中 隆 志  
三重野 翔 太

### ●基本方針

JCI福岡は70周年を迎え、翌年には35年ぶりとなる全国大会の開催を控える重要な1年となります。70年間、地域社会の発展と次世代のリーダーを輩出し、人財育成に貢献してきたJCI福岡にとって多くの事を発信し、対内対外問わず沢山の人たちにJCI福岡の活動と運動を知ってもらえる1年だと思っています。

KEEP GOINGのスローガンのもとに、JCI福岡が前に進むためにも、多くの挑戦と成長の機会を創出し、JCメンバー一人ひとりがチャレンジし、同じ志のもと明るい豊かな社会を目指し、福岡の地域社会に貢献している姿を知っていただく必要があると感じています。

また、翌年に控える全国大会を成功に導くためにも、JCI日本、九州地区協議会、福岡ブロック協議会、福岡県内21LOMとの連携を強固にし、JCI福岡は多くのLOM内外の仲間の協力を得る必要があります。

そのためには積極的な出向の推進、出向者支援はもとより、渉外として日本・地区・ブロック・他LOMとの連携は重要な役割となります。

そして、少しでも多くのメンバーに出向を通して成長の機会を得ていただき、出向での経験をLOMに持ち帰り、今後のJCI福岡の活動につなげてもらえるよう、出向支援と外部との連携を強め、翌年の全国大会につなげていけるように励んでまいります。

70周年、全国大会をより良いものとし、地域への経済的な貢献とJCメンバーに多くの挑戦の機会を与え、チャレンジしてもらうためにも、家族の理解、会社の協力が不可欠になってまいります。

私は家庭・仕事・JCとJCI福岡がバランスを大切にしている団体として、対内対外に発信し、ご家族や会社の皆様の協力が得られるような広報活動、委員会運営を行っていきます。JCI福岡の活動、運動を我々のブランド力向上につなげていける広報活動を行い、JCに所属して活動することをステイタスに感じてもらい、メンバーのご家族や、会社の皆様が応援したくなるような、社会にとって良い活動をしていると感じてもらえるような団体としての広報活動を目指してまいります。

### ●事業計画

□LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施

◇LOMホームページの管理・運営

〈目的〉JCI福岡の取り組みや事業を広く対内・対外共に情報発信すること。

〈方法〉ホームページのリニューアルを行い、随時更新し対内・対外に情報発信を行う。

◇LOM紹介映像の制作

〈目的〉対外：JCI福岡のことを外部に発信し、知っていただき、共感していただくこと。

対内：JCI福岡での活動のモチベーションにつながる情報を動画で伝えること。

〈方法〉2023年度版のLOM紹介映像をつくり、ホームページやSNSでの発信で人々が目にする機会を増やす。また新春例会はじめ各種事業で放映し、メンバーが見る機会を増やす。

◇各種行事の情報発信

〈目的〉対外・対内へ最新の情報を随時発信する事により参加促進や拡大、さらにはJCI福岡のブランディング向上につなげる。

〈方法〉当委員会メンバーが実際に現地に赴き取材を実施し情報収集を行い、ホームページ上にて情報発信を行う。万が一、現地に行けない場合や、現場に入れない状況であっても、当委員会メンバー以外の方々や様々な手法を用いて情報収集に努める。

◇SNSを利用した情報発信の管理・運営

〈目的〉時代に合わせたSNSツールを使い、広くJCI福岡の活動を認知してもらうこと。

〈方法〉LINE公式アカウント、Facebook、YouTubeなど様々なツールを活用し随時情報発信を行う。

◇プレスリリースに関する事項

〈目的〉マスメディア企業と協力的な関係を築き、JCI福岡の情報を発信するとともに、JCI福岡メンバーにとって必要な情報をキャッチし、メンバーに周知すること。

〈方法〉JCI福岡に所属するマスメディアのメンバーと定期的に懇親を図り、常に情報交換できる環境を整える。

□LOM活動の効果的な対外情報発信に関する管理・統括

◇外部団体からの取材などに関する対応

〈目的〉外部団体と友好的な関係を築き、両団体に対して有意義な情報交換をできる環境を整備したうえで他団体からの取材依頼などにも迅速に対応できる体制をつくる。

〈方法〉他団体の集会などにも積極的に参加させていただき関係構築を図る。

◇LOM活動における写真・動画などの記録・管理

〈目的〉様々な取り組みを後世に残すため。

〈方法〉各事業や集会に参加し写真・動画を撮影する。万が一、当委員会メンバーが参加できない場合は、現地にいらっしゃるメンバーに撮影を依頼する等の対応で記録を残す。

# 広 報 渉 外 委 員 会

- ◇マスメディア各社との継続的な提携関係構築に関する事項
  - 〈目的〉JCI福岡の様々な取り組みや事業を、より多くの市民に発信すること。
  - 〈方法〉JCI福岡に所属するマスメディア関連のメンバーと継続的に懇親を深め、いつ何時でも情報交換できる協力的な関係をより強固なものにするるとともに、まだJCI福岡に入会されていないマスメディアの方々にもお会いし、協力的な関係を築くと同時に、JCI福岡に入会していただけるように、積極的に拡大活動を行う。
- ◇出向者の支援、ならびに対内への情報発信に関する事項
  - 〈目的〉出向者が安心して最大限の能力を発揮できる環境を整える。
  - 〈方法〉出向メンバーと綿密にコミュニケーションを図り、福岡開催などの集会や事業が開催される際は最大限の支援をする。またその他の事業についても対内メンバーへ随時情報を発信し続け参加促進に努める。
- ◇出向促進セミナーの実施（年2回）
  - 〈目的〉日頃よりJCI福岡メンバーの目が届きにくい所で、JCI福岡のために一生懸命頑張っている出向者の出向先での活動を、出向したことのないメンバーにより深く理解してもらうことで出向への意欲を掻き立たせるとともに、出向していただいているメンバーのJAYCEE活動へのさらなるモチベーションアップに貢献する。
  - 〈方法〉2022年12月に1回目セミナー実施。2023年11月頃に2回目のセミナーを開催する。
- ◇サマーコンファレンスへの参加促進、LOMナイトの企画・実施
  - 〈目的〉サマーコンファレンスの参加促進と出向者の慰労をすること。
  - 〈方法〉フォーラムとセミナーへの参加依頼およびLOMナイトの開催。
- ◇70周年実行委員会に関する事項
  - 〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。
  - 〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
  - 〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。
  - 〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。
- ◇2024年度全国大会準備に関する事項
  - 〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。
  - 〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。
- ◇JCI糟屋の広報支援に関する事項
  - 〈目的〉スポンサーJCの役割として広報活動を支援し、協力要請がある際には積極的に広報活動を連携しJCI糟屋のPRに協力すること。
  - 〈方法〉JCI糟屋の広報活動に支援や協力依頼があった場合には、組織的かつ効果的なサポートを実施する。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
  - 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年 11月	□討議□協議 (ホームページ作成議案計画)		6月		ブロック大会(柳川) トリオ会議 アスバック(ジャカルタ)
12月	□討議□審議 (ホームページ作成議案計画)	出向者セミナー1回目	7月		国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年 1月		京都会議	8月		九州コンファレンス(熊本)
2月		第3エリア合同例会	9月		
3月			10月		全国大会(東京) 出向者セミナー2回目
4月		対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月		世界会議(チューリッヒ)
5月		JCI広島定期交歓会	12月	□討議□審議 (ホームページ作成議案報告)	送る夕べ



室長 板谷 和樹

## ●基本方針

ひとづくりを通して未来のまちをつくっていく団体である、私たちJCI福岡。70周年を迎える今年、未来に夢と想いをのせ、これまで以上に私たちが立ち止まらず行動し続けていくためには、総務室がLOMの屋台骨としての自覚を強く持ち、メンバーが活動しやすい環境をつくっていくことが必要です。

そのためには、在籍年数の短いメンバーが多い今だからこそ、必要な知識や経験を得る場を的確に設けることが肝要です。定期的に意思統一を図る機会を創出する場としての例会は、これまでの手法のみに囚われず大胆且つ慎重な発想でつくり上げていきます。また、確実にコンプライアンスやJCルールを遵守するのはもちろんのこと、メンバーのシステムに対する理解不足と経験不足を解消するために各種セミナーを開催していきます。

当たり前のことを当たり前に行うだけではなく、次代のためにできることを模索し、挑戦し、実行し続ける総務室がLOMを牽引していくことで、どんな問題が起ころうとも2024年度の全国大会を大成功に終えることができるように、LOMの基盤をより強固なものとしていきます。

# 例 会 委 員 会

## 委員会スローガン【LOMを想い、仲間を想い、無条件に尽くす】



委員長 辻 亮一  
副委員長 川 添 裕土  
拡大統括幹事 岩 切 拓也  
運営幹事 正 岡 憲  
会計幹事 松 岡 大輝  
広報幹事 島 田 優  
村 津 万里  
竹 野 恵介  
中 川 光雄  
永 松 賢二  
宮 内 貴仁  
山 野 晋

### ●基本方針

現在、私たちが生きているこの時代では「ニューノーマル」や「新しい生活様式」などの様々な言葉で変化を告げています。「ニューノーマル」が定着した今だからこそ、継承することと進化させることを見つめ直し、時流に沿った新たな例会を創造していく必要があります。

例会は、誰よりもFUKUOKAやJCI福岡のことを考えている理事長の想いと方向性を聞くことができる唯一の機会です。つまり例会が、社会や地域の問題・課題の解決につながる運動の起点といえます。だからこそ、例会にはLOMメンバー全員が参加することが大切です。例会委員会では、子連れ参加できる環境整備やWEBを駆使したアーカイブ配信等を推進し、全メンバーが理事長の話聞く100%例会を目指します。

また、創業して間もない経営者や会社員として勤めるメンバーが増えており、これまで以上に多様性へ対応していくことが重要です。様々な境遇のメンバーが集まり、様々な価値観があるからこそ多角的な視点でFUKUOKAやJCI福岡を捉えることができる点を強みとすべきです。そのためにも、互いを認め合うために想いの「共有」「共感」「共創」が大切だと考えます。想いを共有し、共感するからこそ共創する気概が生まれるのではないのでしょうか。例会委員会では、「共有」「共感」「共創」を大切にしたい例会企画・設営を行うことでJCI福岡が個性を活かした一枚岩になるよう尽力して参ります。

そして、同志が集うJCI日本・九州地区協議会・福岡ブロック協議会と連携し、多くの知識と経験から学びを得る必要があります。特に福岡ブロック21LOMと強固な関係性を築き連携することで、より良いFUKUOKAを共に形成していくことができると確信します。例会では、他LOMのオブザーブを受け入れ、さらに交流する場を設けることで輪を広げて参ります。

以上を成し遂げるべく、まずは例会委員会メンバーがJCI福岡を想い、そしてLOMメンバーを想い尽くして参ります。その想いをもって新たな例会を創造し、例会を通して社会や地域の発展につながるリーダーの輩出を目指します。

### ●事業計画

#### ◇新春例会の実施（1月）

＜目的＞新春の門出を祝い、理事長の所信を聞くことで2023年度のJCI福岡の方向性を理解し活動意欲を高めること。

＜方法＞御来賓の皆様をはじめ、全メンバーが集うための参加促進を行い、厳粛かつ華やかな雰囲気の中行えるよう設営・運営を行う。

#### ◇福岡ブロック第3エリア合同例会の実施（2月）

＜目的＞福岡ブロック協議会の方針を理解し活動意欲を高めること。第3エリア内のメンバーと交流を図り結束を強めること。また、お互いのJC活動を共有することでより良いFUKUOKAを形成していく気概をもつこと。

＜方法＞主幹LOMであるJCI糸島を中心に、JCI朝倉、JCIつくし、JCI糟屋との連携を図り、福岡ブロックの方針が全メンバーに行き渡るよう企画する。また5LOMの交流が図れる設営・運営を行う。

#### ◇短縮例会の実施（2月、9月、12月）

＜目的＞LOMの進捗や方向性を確認すること。

＜方法＞効率的かつ円滑な運営ができるよう各委員会と連携を図り設営・運営を行う。

#### ◇ファミリーレクリエーション例会の実施（6月）

＜目的＞メンバーを支える家族へ感謝を伝えること。家族にJC活動を前向きに捉えてもらうこと。メンバーおよび家族同士で交流し親睦を深めること。

＜方法＞LOMメンバーが一体となり家族の笑顔のために設営・運営を行う。また、JCI福岡の活動を伝える機会をつくる。

#### ◇通常例会の実施（8月、11月）

＜目的＞メンバーが委員会の垣根を超えて親睦を深めること。メンバーがLOM愛をもつこと。

＜方法＞メンバーの声を聞いたうえでLOMが一枚岩になるための企画・設営を行う。

#### ◇JCI糟屋の例会支援に関する事項

＜目的＞JCI糟屋が発展するため、例会においてアドバイス、サポートを行うこと。

＜方法＞JCI福岡の例会にオブザーブとして受け入れる。また、例会のあるべき姿について議論する。支援依頼があった際は組織的かつ効果的なサポートを行う。

#### ◇70周年実行委員会に関する事項

＜目的＞70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をとらえて、これからのJC活動への機運を高めること。

＜方法＞70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

＜目的＞JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人材を輩出する。

＜方法＞各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を経験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。

#### ◇2024年度全国大会準備に関する事項

＜目的＞全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。

＜方法＞対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

＜目的＞非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

＜方法＞日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年 11月	□討議 □協議 (新春例会事業企画)		6月	□討議 □審議 (8月度 通常例会事業計画)	ブロック大会 (柳川) トリオ会議 アスバック (ジャカルタ) 事業実施 (ファミリーレクリエーション例会)
12月	□討議 □審議 (新春例会事業企画) □討議 □協議 (第3エリア合同例会事業計画)		7月	□討議 □審議 協議 審議 (6月度ファミレク例会事業報告) □討議 □協議 (9月度短縮例会事業計画)	国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年 1月	□討議 □審議 (第3エリア合同例会事業計画)	京都会議 事業実施 (新春例会)	8月	□討議 □審議 (9月度短縮例会事業計画) □討議 □協議 (11月度通常例会事業計画)	九州コンファレンス (熊本) 事業実施 (通常例会)
2月	□討議 □審議 (新春例会事業報告)	事業実施 (第3エリア合同例会)	9月	□討議 □審議 (8月度通常例会事業報告) □討議 □審議 (11月度通常例会事業計画)	事業実施 (短縮例会)
3月	□討議 □審議 (第3エリア合同例会事業報告) □討議 □協議 □協議 □協議 (6月度ファミレク例会事業計画)		10月	□討議 □審議 (9月度短縮例会事業報告) □討議 □協議 (12月度短縮例会事業計画)	全国大会 (東京)
4月	□討議 □審議 □協議 □審議 (6月度ファミレク例会事業計画)	対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月	□討議 □審議 (12月度短縮例会事業計画)	世界会議 (チューリッヒ) 事業実施 (通常例会)
5月	□討議 □協議 (8月度通常例会事業計画)	JCI広島定期交流会	12月	□討議 □審議 (11月度通常例会事業報告)	送る夕べ 事業実施 (短縮例会)



# 総務委員会

## 委員会スローガン【常念必現】



委員長 田 雑 嘉 貢  
副委員長 加 地 優 紀  
拡大統括幹事 宮 崎 祥 平  
運営幹事 松 元 和 洋  
会計幹事 廣 田 匡 則  
広報幹事 進 藤 貴 聡  
安 澤 慎 司  
安河内 治 伸  
山 下 宏 一 朗  
吉 戒 祥 太 郎

### ●基本方針

JCI福岡は「修練」「奉仕」「友情」の三信条のもと、明るい豊かな社会の実現を目指し、LOMメンバーが『ひとづくり』『まちづくり』をJC活動を通して、経験することで学び、リーダーとして成長していく団体です。また、先人たちが築き上げてこられた数々の実績と功績を引き継ぎ、より一層誇りある団体にしていくためには定められたルールの周知徹底をし、それを遵守するように尽力していかなければなりません。

そのために、上程議案および各議事録の期限厳守を徹底し、より早いメンバーへの配信を行います。そうすることで、しっかりと事前準備をして会議に挑んでいただき、事業の内容について、有意義な議論が行えるようにします。また、全体のスケジュール管理に関しても一つひとつのことに対して詳細に内容を把握することによりJC活動がスムーズに行えるようにします。

理事会や常任理事会では、厳粛な空気をつくり貴重な時間を議論に集中できるものにするために、円滑かつ効率的な設営・運営を行います。また、LOMメンバーがリーダーとしての責任と自覚を持ち、誇りある団体の一員として活動ができるように会員規律の周知徹底や副幹セミナーの設営・運営を行います。会員褒賞に関しては、JCI福岡のメンバーとして誇りを持てるような褒賞を設定します。またやすらぎ荘に関しては、JCの三信条（修練、奉仕、友情）を学ぶ場として、直近の3同期会を中心に事業の企画・設営を行います。また、やすらぎ荘を取りまく環境・支援というものがあるのかどうか、LOMメンバー全員に一度理解してもらいます。

最後に、委員会メンバーが率先してリーダーシップ・フォローワーシップを学び、実践することで、一人ひとりが何事にも自分事と捉え行動できる委員会をつくります。そして、また、会員褒賞を効果的に運用し、LOM全体のモチベーションを高めます。自らが置かれている状況を最大限に楽しみ、成長し、周りの人間を引っ張り上げる、その輪がLOM全体へと伝播し「思いやる心」がさらに溢れるJCI福岡をつくります。

### ●事業計画

#### ◇総会、理事会、常任理事会の設営・運営

〈目的〉各会の効率性を求め、より有益性の高い会議を運営して、JCI福岡の意思を明確にすること。

〈方法〉役割分担を明確にし、円滑な運営を行う。また、各会での議事内容を正確に残し、素早い配信をする。

#### ◇各委員会の議案上程スケジュール管理

〈目的〉各議案が適正に協議・審議されるために、各委員会に議案上程期限を厳守する意識を向上させること。

〈方法〉スケジュールを常に把握し、各委員会へ周知することで、議案上程を厳守させる。

#### ◇各委員会の事業に関する議案審査

〈目的〉各議案が効果的かつ効率的に協議・審議されるための基礎をつくること。

〈方法〉上程された議案を適時適切に審査し、不備があれば委員会に速やかに指摘・修正依頼する。

#### ◇各委員会議事録、事業報告書の管理・保持

〈目的〉各委員会の議事内容を把握できるようにするために、各委員会の議事録を管理すること。また、今後の事業立案に役立つようにするために、事業報告書を管理すること。

〈方法〉各委員会内での役割を明確にし、各委員会には議事録・事業報告書の期日内提出を徹底していただき、JCI福岡ホームページの会員ページで閲覧できるようにする。

#### ◇会員褒賞の企画・実施

〈目的〉会員がモチベーション高く活動できるように各種褒賞を設定すること。

〈方法〉各種褒賞内容は分かりやすく、且つ取り組みやすいものとなるようにし、推薦方法および選考基準に不明瞭な部分がないように企画・実施を行う。

#### ◇会員規律、入会に関する事項

〈目的〉会員の規律維持を徹底し、誇りある組織の構築、組織の持続性をめざすこと。

〈方法〉会員に規律徹底を促し、新入会員には入会審査時に分かりやすく説明することにより、強く魅力あるJCI福岡の持続を意識し続ける。

#### ◇役員、副、幹事セミナーの設営・運営

〈目的〉各会の運営方法スタッフの役割等を明確にし、JC活動の円滑化を図ること。

〈方法〉マニュアルを作成し、セミナーを実施することで共通のルールの周知徹底を図る。

#### ◇褒賞申請の作成（JCI・日本・地区・ブロック）

〈目的〉当該年度の褒賞について褒賞申請を行い、JCI福岡の事業を全国に発信すること。

〈方法〉褒賞の内容を確認し、申請の段取りを把握したうえで、各褒賞受賞を目指して申請を行う。

# 総務委員会

- ◇広島定期交歓会の設営・運営
  - 〈目的〉広島で行われる広島定期交歓会において、友好JCであるJCI広島との交流を図ること。
  - 〈方法〉懇親会やゴルフを通して、お互いの懇親を深めることで、今後のJC活動に生かせる情報を共有できる場を設営する。
- ◇やすらぎ荘を含む障がい児・者支援に関する事項
  - 〈目的〉社会福祉・ボランティア活動を通して、三信条（修練、奉仕、友情）を学ぶ場とすること。
  - 〈方法〉やすらぎ荘の意見を踏まえて、直近の3同期会を中心に事業の企画・設営を行い、LOMメンバー全員に今一度理解してもらう。
- ◇JCI糟屋の総務支援に関する事項
  - 〈目的〉JCI糟屋の今後の発展のため、総務面においての適切なアドバイス、サポートを行うこと。
  - 〈方法〉総務面の支援依頼があった場合には、組織的かつ効果的なサポートを行う。
- ◇70周年実行委員会に関する事項
  - 〈目的〉70周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業をととして、これからのJC活動への機運を高めること。
  - 〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
  - 〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人材を輩出する。
  - 〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオブザーブなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力を体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。
- ◇2024年度全国大会準備に関する事項
  - 〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。
  - 〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
  - 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年 11月			6月		ブロック大会（柳川） トリオ会議 アスバック（ジャカルタ）
12月	□討議□協議（褒賞計画）		7月		国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年 1月	□討議□審議（褒賞計画）	京都会議	8月		九州コンファレンス（熊本）
2月		第3エリア合同例会	9月	□討議□協議（やすらぎ荘事業計画）	
3月			10月	□討議□審議（やすらぎ荘事業計画）	全国大会（東京）
4月		対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	11月		世界会議（チューリッヒ） 事業実施（やすらぎ荘）
5月		JCI広島定期交歓会	12月	□討議□審議（やすらぎ荘事業報告）	送る夕べ

# 財政規則審査委員会

## 委員会スローガン【未来へ向けた改革】



委員長 島 雄一  
副委員長 松本 高行  
拡大統括幹事 倉掛 裕輔  
運営幹事 寺内 享忠  
会計幹事 下坂 豪太郎  
広報幹事 薬師 雅実  
石田 光彦  
亀井 亮太  
倉富 大樹  
小林 大介  
手島 勇気  
藤木 稔大

### ●基本方針

JCI福岡は1953年に橋上初代理事長の元、何も分からないがとにかくまちや人のために何かしよう!と集まったメンバーたちによって創立されました。1999年に総務財政委員会が設置され、常設の委員会ながらも年度によって設置の形は変わり、本年度は財政規則審査委員会として、財政規則面・コンプライアンスの確認と改善指導と事前審査を行います。

JCI福岡は今年で70周年を迎え、今までもそしてこれからも、まちや人のために「立ち止まらず、進み続け」様々な事業を構築・実施していきます。時代背景とともに年々変化していく税制改正に伴い、事業構築の際の会計処理もより複雑になる中で一般社団法人として適切な対応が求められていきます。

当委員会では各種セミナーを通じて、各委員会が事業構築の段階で財政規則面の計算やコンプライアンスの確認にて足踏みすることがないように指導していきます。委員会一丸となって徹底的に各委員会へ寄り添い、皆様の想いがしっかりと実現される事業構築の援助をしていきます。また、費用対効果の精査の面や議案構築の面でも活かすことができる、報告議案の在り方や重要性に関して周知徹底をします。そして「未来へ向けた改革」を委員会スローガンとし、誰が見ても全体像がわかる事業計画書の作成アドバイスや、各委員会の細やかなサポート等、様々な改革をし未来のJCI福岡の活動に寄与していきます。

最後に皆様が上程される事業計画書に、我々財政規則審査委員会は精神誠意、審査に取り組んで参ります。また次年度以降もLOMに貢献できるよう、当委員会メンバー全員が議案のプロフェッショナルになるべく、常に向上心をもって学び続け、委員長としてメンバーへ様々な機会を与えたとともに想いと経験を残していきます。

真剣に誠意をもって取り組むからこそ、時には厳しく指摘をさせていただくこともあるかもしれませんが、上程の時間が皆様のJC活動の中で少しでも爽やかな時間になることをお約束致します。

### ●事業計画

- ◇委員会事業に関する予算、決算の事前審査
  - 〈目的〉メンバーからの会費を適正に利用し、効果を最大限発揮できる事業計画の構築がされているか、また計画通りに実行されているかを厳正に審査すること。
  - 〈方法〉各事業において背景・目的・手法が事実に基づき調査研究された上で、またJCIの理念に則って構築されているか、予算が適正に使われ検証の方法や資料一式が事業計画と合致しているかを精査する。
- ◇委員会事業に関するコンプライアンス審査
  - 〈目的〉各事業がコンプライアンス上適正なものであるかを審査し、JCのルール・社会通念上のルールに則ったうえで構築されているかを厳正に審査すること。
  - 〈方法〉各法令を厳守しているかを確認し、JCのルール・社会情勢・条例等とも照らし合わせたうえで議案が構築されているかを精査する。
- ◇役員、副、幹事セミナーの設営・運営
  - 〈目的〉役員、副、幹事の基本的な役割を指導し、円滑な委員会運営の援助を図ること。
  - 〈方法〉セミナーを通じて各役職の基本的な所務を明確に伝える。
- ◇財政規則審査セミナーの設営・運営
  - 〈目的〉財政規則面、コンプライアンス面の確認方法を指導し、円滑に適正な事業構築の援助をすること。
  - 〈方法〉セミナーを通じて基本的な議案構築の方法と規則を資料を元に指導し、知識の向上を図る。
- ◇世界会議（チューリッヒ）への参加促進
  - 〈目的〉世界会議（スイス）の詳細等をLOMへ周知し、参加者を増やすこと。
  - 〈方法〉詳細な内容やスケジュール、交通機関の価格やホテル、現地でのスケジュール等を確認し各委員長経由でLOMへ周知し、参加を促す。
- ◇JCI粕屋の財政規則審査会議を精度の高いものとする。
  - 〈目的〉JCI粕屋の財政規則審査会議を精度の高いものとする。
  - 〈方法〉JCI粕屋の現状の財政規則審査の流れを確認したうえで、依頼に応じJCI福岡の財政規則を元に会議の円滑な進行や方法を指導する。
- ◇70周年実行委員会に関する事項
  - 〈目的〉70周年を契機とした内外問わず関係者へと発信する式典・事業をとおして、これからのJC活動への機運を高めること。
  - 〈方法〉70周年記念式典および70周年記念事業を実施するにあたり、メンバー一人ひとりが当事者意識をもって能動的に行動すること。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
  - 〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。また研修に関しては、誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEを育成し前向きに活動を行うリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。
  - 〈方法〉各委員会最低8名の会員拡大。また研修に関しては、オリエンテーションを通して奉仕・修練・友情を経験させる。またオープンなど正会員との交流を通して、JCI福岡の魅力や体験させ、団体としての存在意義や目的や理念を伝える。
- ◇2024年度全国大会準備に関する事項
  - 〈目的〉全国大会に向けて、LOMの機運を高めるとともに調査・研究・理解を進めていく。
  - 〈方法〉対話集会の開催、各地キャラバンを実施していく。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
  - 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2022年					
11月			6月		ブロック大会（柳川） トリオ会議 アスパック（ジャカルタ）
12月			7月		国際アカデミー サマーコンファレンス
2023年		京都会議	8月		九州コンファレンス（熊本）
1月			9月		
2月		第3エリア合同例会	10月		全国大会（東京）
3月			11月		世界会議（チューリッヒ）
4月		対話集会 日本JC西日本じゃがいもクラブ選手権大会	12月		送るタベ
5月		JCI広島定期交歓会			



一般社団法人 福岡青年会議所  
2023年度 室・委員会 所務分掌規程

<p><b>■拡大特別委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大アプローチマニュアルの策定  <input type="checkbox"/> JCI糟屋の拡大支援に関する事項  <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会準備に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 公開例会の実施 (7月)  <input type="checkbox"/> 役員規定、入会条件の見直し・改定検討  <input type="checkbox"/> 研修に関する事項  <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>	
<p><b>■全国大会準備室</b></p> <p><input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項</p>	<p><b>■全国大会準備第1委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 2024年度全国大会実施に向けた、各青年会議所との連携・準備  <input type="checkbox"/> 開催理念の策定 <input type="checkbox"/> 各ファンクションの詳細決定  <input type="checkbox"/> 地区・ブロックとの連絡調整 <input type="checkbox"/> シニアクラブとの連絡調整</p> <p><input type="checkbox"/> 公開例会の実施 (10月 全国大会準備第2委員会との合同)  <input type="checkbox"/> 対話集会に関する事項  <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会実施にLOM内への勉強会の開催  <input type="checkbox"/> 九州地区大会 (熊本) への参加促進 <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p><b>■全国大会準備第2委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 2024年度全国大会実施に向けた、行政・企業・他団体との連携・準備  <input type="checkbox"/> 全体スケジュール、大会概要の決定 <input type="checkbox"/> 他団体・マスメディアとの連絡調整  <input type="checkbox"/> 宿泊連絡協議会との連絡調整 <input type="checkbox"/> 記念事業の企画・立案</p> <p><input type="checkbox"/> 公開例会の実施 (10月 全国大会準備第1委員会との合同)  <input type="checkbox"/> 対話集会に関する事項  <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会実施にLOM内への勉強会の開催  <input type="checkbox"/> 香港シティJCに関する事項の補助 <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■対外交流室</b></p> <p><input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項</p>	<p><b>■国際交流委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 国際都市推進に向けた交流事業の実施 <input type="checkbox"/> APCC35周年に関する事項  <input type="checkbox"/> 公開例会の実施 (5月地域交流委員会と合同開催)  <input type="checkbox"/> JCI香港シティに関する事項 <input type="checkbox"/> JCIサウスサイゴンに関する事項  <input type="checkbox"/> ASPAC (ジャカルタ) への参加促進 <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p><b>■地域交流委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 産学官民との共創に向けた交流事業の実施  <input type="checkbox"/> 公開例会の実施 (5月国際交流委員会と合同開催)  <input type="checkbox"/> トリオ会議に関する事項 <input type="checkbox"/> JCI糟屋の事業支援に関する事項  <input type="checkbox"/> 福岡ブロック大会 (柳川) への参加促進 <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■魅力向上室</b></p> <p><input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項</p>	<p><b>■スポーツ文化委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> スポーツ文化を活用したまちづくり事業の実施  <input type="checkbox"/> 公開例会の実施 (4月) <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p><b>■芸術文化委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 芸術文化を活用したまちづくり事業の実施  <input type="checkbox"/> 公開例会の実施 (3月) <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■人材育成室</b></p> <p><input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項</p>	<p><b>■キッズアカデミー委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 少年・少女に対しての育成事業の実施 <input type="checkbox"/> サウスサイゴンJCに関する事項の補助  <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項 <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会準備に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p><b>■ヤングアカデミー委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 高校生、大学生もしくは専門学生に対しての育成事業の実施  <input type="checkbox"/> トリオ会議に関する事項の補助 <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p><b>■研修委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 仮入会者への指導・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 新入会者同期会事業に関する事項  <input type="checkbox"/> 70周年実行委員会に関する事項 <input type="checkbox"/> 会員拡大に関する事項  <input type="checkbox"/> JCI糟屋の研修支援に関する事項 <input type="checkbox"/> 2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>

<p><b>■ 対内交流室</b> □70周年実行委員会に関する事項</p>	<p><b>■ 会員交流委員会</b>  <input type="checkbox"/>福岡ブロック協議会第3エリアとの会員交流事業の企画・実施  <input type="checkbox"/>シニアクラブに関する事項  <input type="checkbox"/>西日本じゃがいもクラブ福岡大会の設営・運営  <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>じゃがいもクラブの設営・運営  <input type="checkbox"/>70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/>2024年度全国大会準備に関する事項</p> <p><b>■ 親睦交流委員会</b>  <input type="checkbox"/>卒業生を送る夕べの企画・実施  <input type="checkbox"/>趣味の会に関する事項  <input type="checkbox"/>ぼうふら会の設営・運営  <input type="checkbox"/>迷球会・FJCPONZ・ノーサイドクラブ・茶道同友会の支援  <input type="checkbox"/>全国大会（東京）への参加促進、LOMナイトの企画・実施  <input type="checkbox"/>70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/>2024年度全国大会準備に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■ 広報渉外委員会</b>  <input type="checkbox"/>LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施  <input type="checkbox"/>LOMホームページの管理・運営  <input type="checkbox"/>各種行事の情報発信  <input type="checkbox"/>プレスリリースに関する事項  <input type="checkbox"/>LOM活動の効果的な対外情報発信に関する管理・統括  <input type="checkbox"/>外部団体からの取材などに関する対応  <input type="checkbox"/>LOM活動における写真・動画などの記録・管理  <input type="checkbox"/>マスメディア各社との継続的な提携関係構築に関する事項  <input type="checkbox"/>出向者の支援、ならびに対内への情報発信に関する事項  <input type="checkbox"/>出向促進セミナーの実施（年2回）  <input type="checkbox"/>サマーコンファレンスへの参加促進、LOMナイトの企画・実施  <input type="checkbox"/>70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/>2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>JCI糟屋の広報支援に関する事項</p>
<p><b>■ 総務室</b> □70周年実行委員会に関する事項</p>	<p><b>■ 例会委員会</b>  <input type="checkbox"/>新春例会の実施（1月）  <input type="checkbox"/>短縮例会の実施（2月、9月、12月）  <input type="checkbox"/>通常例会の実施（8・11月）  <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>JCI糟屋の例会支援に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>福岡ブロック第3エリア合同例会の実施（2月）  <input type="checkbox"/>ファミリーレクリエーション例会の実施（6月）  <input type="checkbox"/>70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/>2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■ 総務財政規則委員会</b>  <input type="checkbox"/>総会、理事会、常任理事会の設営・運営  <input type="checkbox"/>各委員会の事業に関する議案審査  <input type="checkbox"/>会員褒賞の企画・実施  <input type="checkbox"/>役員、副、幹事セミナーの設営・運営  <input type="checkbox"/>褒賞申請の作成（JCI・日本・地区・ブロック）  <input type="checkbox"/>やすらぎ荘を含む障がい児・者支援に関する事項  <input type="checkbox"/>70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/>2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>各委員会の議案上程スケジュール管理  <input type="checkbox"/>各委員会議事録、事業報告書の管理・保持  <input type="checkbox"/>会員規律、入会に関する事項  <input type="checkbox"/>広島定期交歓会の設営・運営  <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>JCI糟屋の総務支援に関する事項</p> <p><b>■ 財政規則審査委員会</b>  <input type="checkbox"/>委員会事業に関する予算、決算の事前審査  <input type="checkbox"/>委員会事業に関するコンプライアンス審査  <input type="checkbox"/>財政規則審査のセミナーの設営・運営  <input type="checkbox"/>70周年実行委員会に関する事項  <input type="checkbox"/>2024年度全国大会準備に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>役員、副、幹事セミナーの設営・運営  <input type="checkbox"/>世界会議（スイス）への参加促進  <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>JCI糟屋の財政規則支援に関する事項</p>

事務局長・常務理事・セクレタリー 所務分掌

<p><b>事務局長</b></p>	<p><input type="checkbox"/>外部団体出向、後援依頼の調査、確認に関する事項  <input type="checkbox"/>会員名簿、名刺、ネームプレートの作成に関する事項  <input type="checkbox"/>事務局の運営  <input type="checkbox"/>各諸会議の監督  <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における対応窓口  <input type="checkbox"/>その他</p> <p><input type="checkbox"/>常務理事・セクレタリーの統括  <input type="checkbox"/>JCI北九州との交流に関する事項</p>
<p><b>常務理事</b></p>	<p><input type="checkbox"/>理事長の同行及び所務の補佐  <input type="checkbox"/>専務理事、事務局長のサポート  <input type="checkbox"/>理事長のスケジュール管理、調整に関する事項  <input type="checkbox"/>京都会議への参加促進、LOMナイトの企画・実施  <input type="checkbox"/>その他</p>
<p><b>セクレタリー</b></p>	<p><input type="checkbox"/>理事長の同行及び所務の補佐  <input type="checkbox"/>京都会議への参加促進、LOMナイトの企画・実施  <input type="checkbox"/>その他</p>



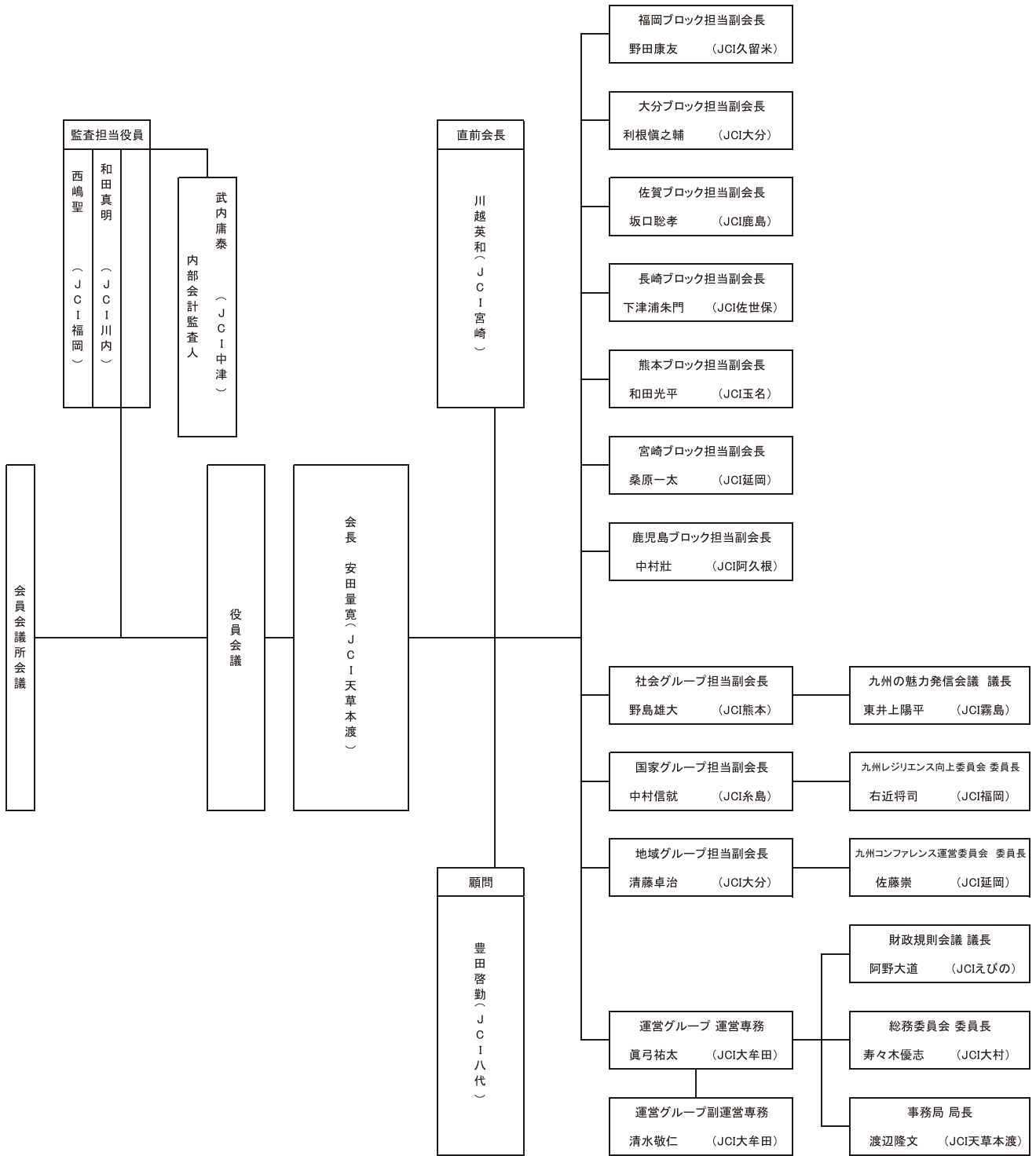
## 青年会議所の概況

- JCI 加盟国 104 NOMs
- JCI 加盟 JC 数 4,557 LOMs 会員数 150,332 名 < 2021年11月現在 >
- JCI 日本 加盟 JC 数 684 LOMs 会員数 28,449 名 < 2022年10月1日現在 >
- JCI 福岡 会員数 210 名 < 2023年1月1日推定 >
- JCI 福岡 創立関連
  - 《 創 立 年 月 日 》 1953 年 2 月 4 日 《 スポンサー JC 》 JCI 宮崎
  - 《 法人許可年月日 》 1971 年 4 月 24 日
  - 《 一般社団法人  
移行年月日 》 2013 年 10 月 1 日
- スポンサー JC JCI 飯塚、JCI 久留米、JCI 直方、JCI つくし、JCI 糸島、  
JCI 糟屋
- シスター JC JCI 釜山（韓国） 1965 年 4 月 20 日  
※ JCI 下関と共にトリオ JC として姉妹締結  
JCI 城市（香港） 1984 年 11 月 4 日 姉妹締結  
JCI サウスサイゴン（ベトナム）  
2016 年 11 月 1 日 姉妹締結
- 友好 LOM JCI 北九州 2001 年 11 月 21 日 友好 LOM 締結  
JCI 広島 1986 年から毎年、交歓会を開催

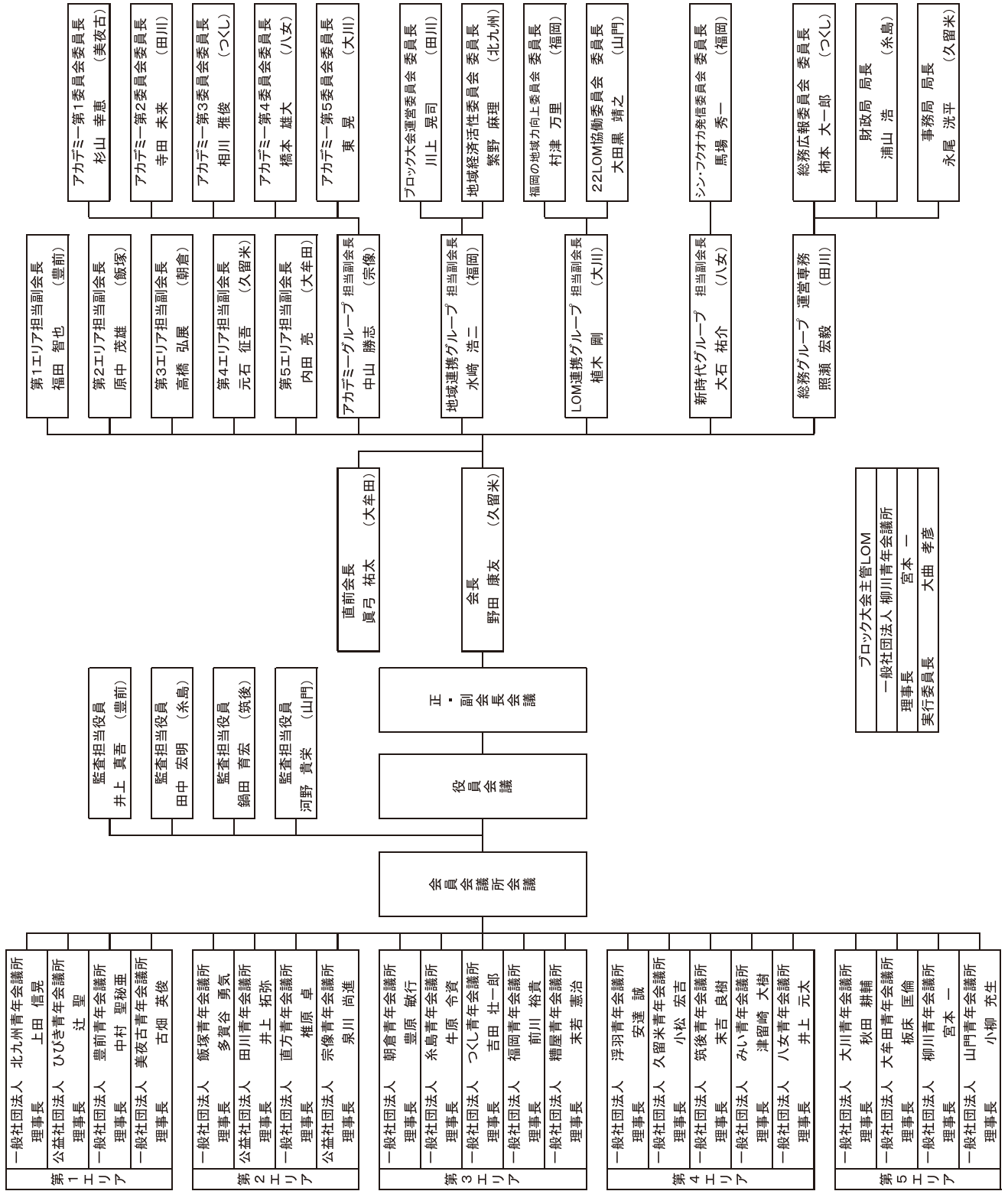




公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会 2023年度 組織図



# 2023年度福岡ブロック協議会 組織図



## 福岡青年会議所 歴代理事長

第1期 ( 1953年 2月~6月 )	橋上 保久	第36期 (1988年)	財津 重美
第2期 ( 1953年7月~ 1954年6月 )	橋上 保久	第37期 (1989年)	石坂 博史
第3期 ( 1954年7月~ 1955年6月 )	具島 正二	第38期 (1990年)	真鍋 博俊
第4期 ( 1955年7月~ 1956年12月 )	具島 正二	第39期 (1991年)	小林 専司
第5期 (1957年)	伊藤 剛平	第40期 (1992年)	樺島 逸兵
第6期 (1958年)	高松 光彦	第41期 (1993年)	菅原 正道
第7期 (1959年)	武内 徳夫	第42期 (1994年)	河邊 哲司
第8期 (1960年)	野上 恭敬	第43期 (1995年)	安川 哲史
第9期 (1961年)	坂本 行雄	第44期 (1996年)	松山 政司
第10期 (1962年)	高松 邦彦	第45期 (1997年)	吉松 修
第11期 (1963年)	喜多村辰男	第46期 (1998年)	田中 彰洋
第12期 (1964年)	四島 司	第47期 (1999年)	新町 敦志
第13期 (1965年)	大賀禮太郎	第48期 (2000年)	藤野 利浩
第14期 (1966年)	麻生 純三	第49期 (2001年)	井上 貴博
第15期 (1967年)	久野 桂一	第50期 (2002年)	岩本 仁
第16期 (1968年)	中島 邦補	第51期 (2003年)	廣田 稔
第17期 (1969年)	栗栖健一郎	第52期 (2004年)	井上 博行
第18期 (1970年)	田中丸善司	第53期 (2005年)	宮崎 鐘子
第19期 (1971年)	後藤 隆雄	第54期 (2006年)	小池 勝利
第20期 (1972年)	洞 尚	第55期 (2007年)	富永 太郎
第21期 (1973年)	江口昭八郎	第56期 (2008年)	新開 裕司
第22期 (1974年)	金子 宜嗣	第57期 (2009年)	大村 光
第23期 (1975年)	近江 福雄	第58期 (2010年)	大山 哲寿
第24期 (1976年)	古賀 秀策	第59期 (2011年)	長沼 慶也
第25期 (1977年)	加地 良一	第60期 (2012年)	末松 大和
第26期 (1978年)	富永 恒二	第61期 (2013年)	田川 幸平
第27期 (1979年)	榎本 一彦	第62期 (2014年)	森山 新樹
第28期 (1980年)	冬至 洋一	第63期 (2015年)	中田 泰平
第29期 (1981年)	新川 宏輔	第64期 (2016年)	藤 真臣
第30期 (1982年)	青柳 泰秀	第65期 (2017年)	鈴木 大輔
第31期 (1983年)	熊谷 信治	第66期 (2018年)	田島 敬悟
第32期 (1984年)	福永 周兵	第67期 (2019年)	岩木 勇人
第33期 (1985年)	榎本 正弘	第68期 (2020年)	出田 正城
第34期 (1986年)	中牟田健一	第69期 (2021年)	彌登 義明
第35期 (1987年)	中村 量一	第70期 (2022年)	西嶋 聖



## 出向外部団体一覧

	団体名
1	NPO 法人 アジア太平洋子ども会議・イン福岡
2	アジア太平洋子ども会議・イン福岡支援の会
3	アジア太平洋子ども会議・イン福岡実行委員会
4	BCIO (Bridge Club International Organization)
5	福岡地域留学生交流推進協議会
6	福岡・US オークランド姉妹都市委員会
7	福岡・広州姉妹都市委員会
8	福岡・ボルドー姉妹都市委員会
9	福岡・NZ オークランド姉妹都市委員会
10	北方領土返還促進福岡県民協議会
11	アビスパ福岡後援会
12	福岡市ごみ減量・リサイクル推進会議
13	一般社団法人 九州市民大学
14	福岡市民の祭振興会
15	福岡市地球温暖化対策市民協議会
16	福岡フィルムコミッション
17	福岡市交通安全推進協議会
18	福岡市自動車交通公害防止計画推進協議委員会
19	犯罪のない安全で住みよいまちづくり推進本部
20	FUKUOKA みらいプロジェクト
21	那珂川水上交通活性化推進協議会
22	福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会
23	地域司法連絡協議会
24	FUKUOKA Christmas Market 実行委員会
25	福岡マラソン実行委員会
26	アビスパグローバルアソシエイツ (AGA)
27	一般社団法人 九州インターンシップ推進協議会
28	社会福祉法人 野の花学園
29	福岡トライアスロン組織委員会
30	グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム
31	第 19 回 FINA 世界水泳選手権福岡大会組織委員会
32	第 19 回 FINA 世界水泳選手権福岡大会実行委員会
33	第 19 回 FINA 世界水泳選手権福岡大会財務支援委員会
34	福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会



## 一般社団法人 福岡青年会議所

〒812-0021

福岡市博多区築港本町 13-6 ベイサイドプレイス博多 C棟

TEL:092-263-6333 FAX:092-263-6334

13-6, Chikkouhonmachi, Hakataku,

Fukuoka-shi, Fukuoka, 812-0021, JAPAN

PHONE +81-92-263-6333 FAX +81-92-263-6334

<https://www.fukuoka-jc.or.jp/>

E-mail [jci-fukuoka@dream.jp](mailto:jci-fukuoka@dream.jp)